



ストレージアダプタの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- [ストレージアダプタの管理 \(1 ページ\)](#)
- [Flexible Flash コントローラの管理 \(36 ページ\)](#)
- [FlexUtil コントローラの管理 \(59 ページ\)](#)
- [Cisco ブート最適化 M.2 Raid コントローラ \(72 ページ\)](#)
- [Cisco FlexMMC \(83 ページ\)](#)

ストレージアダプタの管理

自己暗号化ドライブ（フル ディスク暗号化）

Cisco IMC は、自己暗号化ドライブ（SED）をサポートしています。ドライブ内の特別なハードウェアがリアルタイムで入力データを暗号化し、出力データを復号します。この機能は、フル ディスク暗号化（FDE）とも呼ばれます。

ドライブ上のデータは、ドライブに入力される際に暗号化され、出力される際に復号されます。ただし、ドライブをロックしている場合は、データを取得するためにセキュリティキーは必要ありません。

ドライブがロックされると、暗号化キーが内部で作成され保存されます。このドライブに保存されているすべてのデータは、そのキーを使用して暗号化され、暗号化された形式で保存されます。データをこのように保存すると、データを非暗号化してドライブから取得するためにセキュリティキーが必要になります。ドライブのロックを解除すると、その暗号化キーが削除され、保存されたデータは使用できなくなります。これは、Secure Erase と呼ばれます。FDE は、キー ID とセキュリティ キーで構成されます。

FDE 機能は次の操作をサポートしています。

- コントローラでのセキュリティの有効化および無効化
- セキュアな仮想ドライブの作成
- 非セキュアなドライブ グループの保護

- 外部の設定ドライブのロック解除
- 物理ドライブ (JBOD) でのセキュリティの有効化
- セキュアな SED ドライブのクリア
- セキュアな外部設定のクリア

デュアルまたは複数のコントローラ的环境中にコントローラセキュリティを設定する場合に考慮すべきシナリオ



(注) デュアルまたは複数のコントローラの接続は一部のサーバーでのみ使用できます。

コントローラのセキュリティは、個別に有効、無効、または変更できます。ただし、ローカルキー管理とリモートキー管理は、サーバー上のすべてのコントローラに適用されます。したがって、キー管理モードの切り替えを伴うセキュリティアクションは慎重に行う必要があります。両方のコントローラが安全で、コントローラの1つを別のモードに移動する場合は、もう一方のコントローラでも同じ操作を実行する必要があります。

次の2つのシナリオを考えてみましょう。

- シナリオ1: キー管理はリモートに設定されています。両方のコントローラは安全で、リモートキー管理を使用します。ローカルキー管理に切り替える場合は、各コントローラのキー管理を切り替えて、リモートキー管理を無効にします。
- シナリオ2: キー管理はローカルに設定されています。両方のコントローラは安全で、ローカルキー管理を使用します。リモートキー管理に切り替える場合は、リモートキー管理を有効にして、各コントローラのキー管理を切り替えます。

いずれかのコントローラでコントローラセキュリティ方式を変更しないと、セキュアなキー管理がサポートされていない設定状態になります。

コントローラセキュリティの有効化

このオプションを使用できるのは一部のCシリーズサーバーだけです。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。

ステップ2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID もしくは HBA コントローラをクリックします。

ステップ3 [Controller Info] 領域で、[Enable Drive Security] をクリックします。

ステップ4 [Enable Drive Security] ダイアログボックスで、次のフィールドを更新します。

名前	説明
[Controller Security] フィールド	コントローラが無効であることを示します。
[Key Management] フィールド	<p>キーをリモートで管理するかローカルで管理するかを指定します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [リモートキー管理 (Remote Key Management)] オプションボタン: リモート KMIP サーバを使用して、コントローラのセキュリティ キーを設定または管理します。 <p>(注) このオプションを選択すると、既存のセキュリティ キーを指定する必要はなくなりますが、キー ID とローカル管理用のセキュリティ キーの入力が必要になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ローカルキー管理 (Local Key Management)] オプションボタン: コントローラセキュリティ キーをローカルで設定します。
[セキュリティ キー ID (Security Key Identifier)] フィールド	現在のキー ID。
[セキュリティ キー (Security Key)] フィールド	<p>コントローラのセキュリティを有効にする際に使用するセキュリティ キーです。現在のセキュリティ キーを変更する場合は、このフィールドに新しいキーを入力します。</p> <p>(注) セキュリティ キーを変更すると、[セキュア キーの検証 (Secure Key Verification)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウに現在のセキュリティ キーを入力してキーの検証を行う必要があります。</p>
[セキュリティ キーの確認 (Confirm Security Key)] フィールド	セキュリティ キーを再度入力します。
[提案 (Suggest)] ボタン	割り当てることができるセキュリティ キーまたはキー ID を提案します。

ステップ 5 [Save] をクリックします。

これにより、コントローラのセキュリティが有効になります。

コントローラセキュリティの変更

このオプションを使用できるのは一部の C シリーズ サーバーだけです。

始める前に

- このタスクを実行するには、**admin** 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- コントローラセキュリティを変更するには、最初に有効にしておく必要があります。

手順

- ステップ 1** [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。
- ステップ 2** [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID もしくは HBA コントローラをクリックします。
- ステップ 3** [Controller Info] 領域で、[Modify Drive Security] をクリックします。
- ステップ 4** [Modify Drive Security] ダイアログボックスで、次のフィールドを更新します。

名前	説明
[コントローラセキュリティ (Controller Security)] フィールド	コントローラセキュリティが有効になっているかどうかを示します。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • 有効— コントローラセキュリティが有効です。 • 無効— コントローラセキュリティが無効です。
[セキュリティ キー ID (Security Key Identifier)] フィールド	現在のキー ID。
[セキュリティ キー (Security Key)] フィールド	コントローラのセキュリティを有効にする際に使用するセキュリティ キーです。現在のセキュリティ キーを変更する場合は、このフィールドに新しいキーを入力します。 (注) セキュリティ キーを変更すると、[セキュア キーの検証 (Secure Key Verification)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウに現在のセキュリティ キーを入力してキーの検証を行う必要があります。
[セキュリティ キーの確認 (Confirm Security Key)] フィールド	セキュリティ キーを再入力します。

名前	説明
[Modify Security Key (セキュリティキーの変更)] チェックボックス	(注) このオプションは、リモートキー管理の場合にのみ表示されます。 このオプションを選択すると、KMIP サーバのセキュリティキーが変更されます。
[Suggest] ボタン	割り当てることができるセキュリティ キーまたはキー ID の候補を示します。
[保存 (Save)] ボタン	データを保存します。
[Cancel] ボタン	アクションを取り消します。

ステップ 5 [Save] をクリックします。

これにより、コントローラセキュリティ設定が変更されます。

コントローラセキュリティの無効化

このオプションを使用できるのは一部の C シリーズ サーバーだけです。

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- コントローラセキュリティを無効にするには、最初に有効にしておく必要があります。

手順

ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。

ステップ 2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID もしくは HBA コントローラをクリックします。

ステップ 3 [Controller Info] 領域で、[Disable Drive Security] をクリックします。

ステップ 4 確認ポップアップ ウィンドウで [OK] をクリックします。

これにより、コントローラのセキュリティがディセーブルになります。

ローカルとリモートのキー管理間のコントローラセキュリティの切り替え

このタスクでは、コントローラのセキュリティをローカル管理からリモート管理、およびリモート管理からローカル管理に切り替えることができます。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

-
- ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
 - ステップ 2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID もしくは HBA コントローラをクリックします。
 - ステップ 3 [Controller Info] 領域で、コントローラのセキュリティをリモート管理からローカル管理に切り替えるには、[Switch to Local Key Management] をクリックします。
(注) リモート キー管理からローカル キー管理に切り替えるときは、まず KMIP セキュア キー管理を無効にしてください。
 - ステップ 4 (任意) 同様に、コントローラのセキュリティをローカル管理からリモート管理に切り替える場合は、[Switch to Remote Key Management] をクリックします。
 - ステップ 5 [OK] をクリックして確定します。
-

未使用の物理ドライブからの仮想ドライブの作成

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

-
- ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
 - ステップ 2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID もしくは HBA コントローラをクリックします。
 - ステップ 3 [Actions] 領域で、[Create Virtual Drive from Unused Physical Drives] をクリックします。
[未使用の物理ドライブから仮想ドライブを作成する (Create Virtual Drive from Unused Physical Drives)]ダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 4 [未使用の物理ドライブから仮想ドライブを作成する (Create Virtual Drive from Unused Physical Drives)]ダイアログボックスで、新しい仮想ドライブの RAID レベルを選択します。
次のいずれかになります。
 - [Raid 0] : 単純なストライピング。
 - [Raid 1] : 単純なミラーリング。
 - [Raid 5] : パリティ付きストライピング。
 - [Raid 6] : 2つのパリティ ドライブによるストライピング。

- [Raid 10] : スパンされたミラーリング。
- [Raid 50] : パリティを使用した SPAN ストライピング。
- [Raid 60] : 2つのパリティ ドライブによるスパンされたストライピング。

ステップ 5 [ドライブ グループの作成 (Create Drive Groups)] 領域で、グループに含める 1 つ以上の物理ドライブを選択します。

[ドライブ グループ (Drive Groups)] テーブルにドライブを追加するには、[>>] ボタンを使用します。ドライブ グループから物理ドライブを削除するには、[<<] ボタンを使用します。

- (注)
- ドライブグループで最も小さな物理ドライブのサイズによって、すべての物理ドライブに使用される最大サイズが定義されます。すべての物理ドライブの領域が最大限に使用されることを保証するには、ドライブグループ内のすべてのドライブのサイズをほぼ同じにすることを推奨します。
 - Cisco IMC は、RAID コントローラのみを管理し、サーバーに接続された HBA は管理しません。
 - 特定の RAID レベルの仮想ドライブを作成するには、使用できる複数のドライブグループが必要です。これらの RAID レベルのドライブの作成中、必要な数のドライブが選択されている場合にのみ、[ドライブの作成 (create drive)] オプションが使用できます。

ステップ 6 [Virtual Drive Properties] 領域で、次のプロパティを更新します。

名前	説明
[仮想ドライブ名 (Virtual Drive Name)] フィールド	新しく作成する仮想ドライブの名前。
[読み取りポリシー (Read Policy)] ドロップダウンリスト	先読みキャッシュ モード。
[キャッシュ ポリシー (Cache Policy)] ドロップダウンリスト	読み取りバッファ処理に使用するキャッシュ ポリシー。
[Strip Size] ドロップダウン リスト	各ストリップのサイズ (KB 単位) 。

名前	説明
[書き込みポリシー (Write Policy)] ドロップダウンリスト	<p>次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ライトスルー (Write Through)]: データはキャッシュに取り込まれてから物理ドライブに書き込まれます。以降はキャッシュからデータを読み取ることができるため、パフォーマンスが向上します。 • [ライトバック (Write Back)]: データはキャッシュ内に保管され、キャッシュにスペースが必要になった場合のみ物理ドライブに書き込まれます。電源障害の発生時にBBUでキャッシュの安全を保障できない場合、このポリシーを要求する仮想ドライブは [ライトスルー (Write Through)] キャッシングにフォールバックします。 • [ライトバック不良BBU (Write Back Bad BBU)]: このポリシーでは、バッテリーバックアップユニットに欠陥があるか、バッテリーバックアップユニットが放電しているとしても、書き込みキャッシングは [ライトバック (Write Back)] の状態に維持されます。
[ディスク キャッシュ ポリシー (Disk Cache Policy)] ドロップダウンリスト	<p>次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [未変更 (Unchanged)]: ディスク キャッシュ ポリシーは変更されていません。 • [有効 (Enabled)]: ディスク上のIOキャッシングが許可されます。 • [無効 (Disabled)]: ディスク キャッシングは許可されません。
[Access Policy] ドロップダウンリスト	<p>次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [読み取り/書き込み (Read Write)]: ホストにVDに対する読み取り/書き込み操作の実行が許可されます。 • [読み取り専用 (Read Only)]: ホストにはVDからの読み取り操作だけが許可されます。 • [ブロック (Blocked)]: ホストにはVDに対する読み取り/書き込み操作がいずれも許可されません。

名前	説明
[サイズ (Size)] フィールド	作成する仮想ドライブのサイズ。値を入力して、次のいずれかの単位を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • MB • GB • TB

ステップ 7 [XML API 要求の生成 (Generate XML API Request)] ボタンをクリックして、API 要求を生成します。

ステップ 8 [閉じる (Close)] をクリックします。

ステップ 9 [仮想ドライブの作成 (Create Virtual Drive)] をクリックします。

既存のドライブグループからの仮想ドライブの作成

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。

ステップ 2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID もしくは HBA コントローラをクリックします。

ステップ 3 [Actions] 領域で、[Create Virtual Drive from an Existing Virtual Drive Group] をクリックします。

[既存の仮想ドライブグループから仮想ドライブを作成する (Create Virtual Drive from an Existing Virtual Drive Group)] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [既存の仮想ドライブグループから仮想ドライブを作成する (Create Virtual Drive from an Existing Virtual Drive Group)] ダイアログボックスで、新しい仮想ドライブの作成に使用するドライブグループの仮想ドライブを選択します。

ステップ 5 [仮想ドライブのプロパティ (Virtual Drive Properties)] 領域で、次のプロパティを更新します。

名前	説明
[仮想ドライブ名 (Virtual Drive Name)] フィールド	新しく作成する仮想ドライブの名前。
[読み取りポリシー (Read Policy)] ドロップダウンリスト	先読みキャッシュモード。

名前	説明
[キャッシュポリシー (Cache Policy)] ドロップダウンリスト	読み取りバッファ処理に使用するキャッシュポリシー。
[Strip Size] ドロップダウンリスト	各ストリップのサイズ (KB 単位) 。
[書き込みポリシー (Write Policy)] ドロップダウンリスト	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [ライトスルー (Write Through)] : データはキャッシュに取り込まれてから物理ドライブに書き込まれます。以降はキャッシュからデータを読み取ることができるため、パフォーマンスが向上します。 • [ライトバック (Write Back)] : データはキャッシュ内に保管され、キャッシュにスペースが必要になった場合のみ物理ドライブに書き込まれます。電源障害の発生時にBBUでキャッシュの安全を保障できない場合、このポリシーを要求する仮想ドライブは [ライトスルー (Write Through)] キャッシングにフォールバックします。 • [ライトバック不良BBU (Write Back Bad BBU)] : このポリシーでは、バッテリーバックアップユニットに欠陥があるか、バッテリーバックアップユニットが放電しているとしても、書き込みキャッシングは [ライトバック (Write Back)] の状態に維持されます。
[ディスクキャッシュポリシー (Disk Cache Policy)] ドロップダウンリスト	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [未変更 (Unchanged)] : ディスクキャッシュポリシーは変更されていません。 • [有効 (Enabled)] : ディスク上のIOキャッシングが許可されます。 • [無効 (Disabled)] : ディスクキャッシングは許可されません。
[Access Policy] ドロップダウンリスト	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [読み取り/書き込み (Read Write)] : ホストにVDに対する読み取り/書き込み操作の実行が許可されます。 • [読み取り専用 (Read Only)] : ホストにはVDからの読み取り操作だけが許可されます。 • [ブロック (Blocked)] : ホストにはVDに対する読み取り/書き込み操作がいずれも許可されません。

名前	説明
[サイズ (Size)] フィールド	作成する仮想ドライブのサイズ。値を入力して、次のいずれかの単位を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • MB • GB • TB

ステップ 6 [XML API 要求の生成 (Generate XML API Request)] ボタンをクリックして、API 要求を生成します。

ステップ 7 [閉じる (Close)] をクリックします。

ステップ 8 [仮想ドライブの作成 (Create Virtual Drive)] をクリックします。

仮想ドライブを転送対応状態に設定

[転送対応に設定 (Set Transport Ready)] 機能を使用して、MegaRAID コントローラ間で仮想ドライブを移動できます。これにより、仮想ドライブのすべての保留中 IO がそのアクティビティを完了し、仮想ドライブがオペレーティングシステムに認識されないようにし、キャッシュをフラッシュし、すべてのバックグラウンド操作を一時停止し、現在の進行状況をディスクデータ形式で保存することができるため、ドライブを移動できます。仮想ドライブを移動すると、同じドライブグループに属する他のすべてのドライブは、移動されたドライブと同じ変更を継承します。

グループで最後に設定された物理ドライブが現行コントローラから取り外されると、ドライブグループは外部グループになり、すべての外部設定ルールがこのグループに適用されます。ただし、転送対応機能は外部設定の動作を変更しません。

仮想ドライブの転送対応状態をクリアすることもできます。これによって、仮想ドライブがオペレーティングシステムに対して使用可能になります。

転送対応仮想ドライブに適用される制約は次のとおりです。

- 現在サポートされている転送対応ドライブグループの最大数は 16 です。
- この機能はハイアベイラビリティではサポートされません。
- 次の条件下では仮想ドライブを転送対応として設定できません。
 - ドライブグループの仮想ドライブが再構築中である場合
 - ドライブグループの仮想ドライブにピンキャッシュが含まれている場合
 - ドライブグループの仮想ドライブがキャッシュ可能としてマークされているか、CacheCade 仮想ドライブに関連付けられている場合
 - 仮想ドライブが CacheCade 仮想ドライブの場合

- 仮想ドライブがオフラインの場合
- 仮想ドライブがブート可能な仮想ドライブの場合

仮想ドライブを転送対応として設定

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- 転送対応を有効にするには、仮想ドライブが最適な状態である必要があります。

手順

- ステップ 1** [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ 2** [ストレージ (Storage)]メニューで、適切な LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。
- ステップ 3** 作業ペインで [仮想ドライブ情報 (Virtual Drive Info)] タブをクリックします。
- ステップ 4** [仮想ドライブ (Virtual Drives)] 領域で、転送対応に設定するドライブを選択します。
- ステップ 5** [アクション (Actions)] 領域で、[転送対応に設定 (Set Transport Ready)] をクリックします。
- [転送対応に設定 (Set Transport Ready)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 6** このダイアログボックスで次のプロパティを更新します。

名前	説明
[タイプの初期化 (Initialize Type)] ドロップダウン リスト	<p>選択した仮想ドライブを転送準備完了として設定するのに使用する初期化タイプを選択できます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [すべて除外する (Exclude All)] : 専用ホットスペア ドライブをすべて除外します。 • [すべて含める (Include All)] : 排他的に使用できる専用ホットスペア ドライブ、または共有されている専用ホットスペア ドライブをすべて含めます。 • [専用ホットスペア ドライブを含める (Include Dedicated Hot Spare Drive)] : 排他的に専用できるホットスペア ドライブを含めます。
[転送準備完了に設定 (Set Transport Ready)] ボタン	選択した仮想ドライブを転送準備完了として設定します。
[Cancel] ボタン	操作をキャンセルします。

- (注) 仮想ドライブを転送対応に設定すると、その仮想ドライブに関連付けられているすべての物理ドライブが **[削除可能 (Ready to Remove)]** として表示されます。

仮想ドライブの転送対応状態のクリア

始める前に

- このタスクを実行するには、admin権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- 仮想ドライブを転送対応にする必要があります。

手順

- ステップ 1** [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。
- ステップ 2** [ストレージ (Storage)] メニューで、適切な LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。
- ステップ 3** 作業ペインで [仮想ドライブ情報 (Virtual Drive Info)] タブをクリックします。
- ステップ 4** [仮想ドライブ (Virtual Drives)] 領域で、転送対応に設定するドライブを選択します。
- ステップ 5** [アクション (Actions)] 領域で、[転送対応をクリア (Clear Transport Ready)] をクリックします。

選択した転送対応状態の仮想ドライブが、元の最適状態に戻ります。

物理ドライブステータス自動構成モードの設定

始める前に

サーバの電源が投入されている。



- (注) このダイアログボックスは、一部の C シリーズ サーバでのみ有効になります。

手順

- ステップ 1** [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。
- ステップ 2** ストレージメニューで、適切な LSI MegaRAID をクリックします。

デフォルトでは、コントローラ エリアには[コントローラ情報 (Controller Info)]タブが表示されます。

ステップ 3 アクションエリアで、[物理ドライブステータス自動構成モードの設定 (Set Physical Drive Status Auto Config Mode)]をクリックします。

[物理ドライブステータス自動構成モードの設定 (Set Physical Drive Status Auto Config Mode)]ダイアログボックスが表示されます。

名前	説明
[物理ドライブステータス自動構成モード (Physical Drive Status Auto Config Mode)]ドロップダウンリスト	<p>コントローラに選択した物理ドライブ ステータスの自動設定モード。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [未構成 良好 (Unconfigured Good)] - デフォルトのオプション。サーバーを RAID ボリュームおよび混合 JBOD に使用している場合は、このオプションを選択します。 • [RAID-0 Write Back] - ドライブごとの R0 WB にサーバーを使用している場合は、このオプションを選択します。 • [JBOD] - サーバーを JBOD のみに使用している場合は、このオプションを選択します。

(注) [自動構成 (Auto Config)]モードで適切なオプションを選択すると、未使用の物理ドライブのすべてのステータスが変更されます。

ステップ 4 ドロップダウン リストから、必要な自動構成モードを選択します。

ステップ 5 [保存 (Save)]をクリックします。

自動構成モードの変更は、新しく挿入されたすべてのドライブに適用されます。

外部設定のインポート

別のコントローラで以前に設定されている1つ以上の物理ドライブがサーバにインストールされると、それらは外部設定として識別されます。コントローラにこれらの外部設定をインポートできます。



重要 次の2つのシナリオでは外部設定をインポートすることはできません。

1. セキュアな仮想ドライブがリモートキーを使用してサーバー1（設定のインポート元）で作成され、ローカルキーを使用してサーバー2（インポート先）で作成された場合。
2. サーバー2が、サーバー1のKMIPサーバークラスタの一部でない別のKMIPサーバーで構成されている場合。

これらのシナリオで外部設定をインポートするには、サーバー2のコントローラセキュリティをローカルキー管理からリモートキー管理に変更し、サーバー1のKMIPが設定されている同じクラスタから同じKMIPサーバーを使用します。

始める前に

このタスクを実行するには、admin権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの[ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。

ステップ2 [RAID controller] 領域に、[Controller Info] タブがデフォルトで表示されます。

ステップ3 [Actions] 領域で、[Import Foreign Config] をクリックします。

(注) KMIPが有効になっていない場合は、[Secure Key Verification] ダイアログボックスが表示され、外部設定のインポートプロセスを開始するためのセキュリティキーを入力するように指示されます。

KMIPが有効な場合は、[セキュアキー検証 (Secure Key Verification)] ダイアログボックスに次のようなメッセージが表示されます。「ドライブのセキュリティがリモートキー管理により有効になっている場合、セキュリティキーの指定は任意です (If drive security has been enabled via remote key management, specifying Security key is optional.)」。Click on verify to start foreign configuration import.」

これにより、セキュリティキーを入力せずに[Verify]をクリックし、インポートを開始することができます。

ステップ4 [OK] をクリックして確定します。

外部設定のクリア



重要 このタスクでは、コントローラのすべての外部設定がクリアされます。また、外部設定をホスティングしているすべての物理ドライブからすべての設定情報が削除されます。このアクションは元に戻せません。

始める前に

このタスクを実行するには、**admin** 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ 2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。[RAID Controller] 領域に、[Controller Info] タブがデフォルトで表示されます。
- ステップ 3 [Actions] 領域で、[Clear Foreign Config] をクリックします。
- ステップ 4 [OK] をクリックして確定します。

ブート ドライブのクリア



重要 このタスクでは、コントローラのブートドライブ設定がクリアされます。このアクションは元に戻せません。

始める前に

このタスクを実行するには、**admin** 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ 2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。[RAID Controller] 領域に、[Controller Info] タブがデフォルトで表示されます。
- ステップ 3 [Actions] 領域で、[Clear Boot Drive] をクリックします。
- ステップ 4 [OK] をクリックして確定します。

JBOD モードの有効化

手順

- ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ 2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。
- ステップ 3 [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Physical Drives] 領域で、未設定の適切なドライブを選択します。
- ステップ 5 [Actions] 領域で [Enable JBOD] をクリックします。
- ステップ 6 [Ok] をクリックして確定します。

JBOD の無効化



(注) このオプションを使用できるのは一部の UCS C シリーズ サーバーだけです。

始める前に

JBOD オプションは、選択したコントローラに対してイネーブルにする必要があります。

手順

- ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ 2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。
- ステップ 3 [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Physical Drives] 領域で、JBOD ドライブを選択します。
- ステップ 5 [Actions] 領域で [Disable JBOD] をクリックします。
- ステップ 6 [Ok] をクリックして確定します。

コントローラのストレージ ファームウェア ログの取得

このタスクは、コントローラのストレージファームウェア ログを取得し、それを /var/log の場所に配置します。これにより、テクニカル サポート データが要求された場合にこのログ データを確実に使用できるようになります。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。
- ステップ2 作業領域に、[Controller Info] タブがデフォルトで表示されます。
- ステップ3 [Actions] 領域で、[Get Storage Firmware Log] をクリックします。
- ステップ4 [OK] をクリックして確定します。

重要 コントローラのストレージファームウェア ログを取得するには2～4分かかる場合があります。このプロセスが完了するまで、テクニカルサポートデータのエクスポートを開始しないでください。

コントローラの設定のクリア

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。
- ステップ2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID もしくは HBA コントローラをクリックします。
- ステップ3 [Controller Info] 領域で、[Clear All Configuration] をクリックします。
- ステップ4 [OK] をクリックして確定します。

これにより、既存のコントローラ設定がクリアされます。

ストレージコントローラの工場出荷時の初期状態への復元

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID もしくは HBA コントローラをクリックします。
- ステップ3 [Controller Info] 領域で、[Set Factory Defaults] をクリックします。
- ステップ4 [OK] をクリックして確定します。

これにより、コントローラ設定が出荷時の初期状態に復元します。

ドライブの削除のための準備



- (注) [Unconfigured Good] ステータスを表示する物理ドライブのみでこのタスクを実行できます。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。
- ステップ3 [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ4 [Physical Drives] 領域で、削除するドライブを選択します。
- ステップ5 [アクション (Actions)]領域で[削除の準備 (Prepare for Removal)]をクリックします。
- ステップ6 [OK] をクリックして確定します。

ドライブの削除のための準備の取り消し

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。

- ステップ2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。
- ステップ3 [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ4 [Physical Drives] 領域で、[Ready to Remove] 状態のドライブを選択します。
- ステップ5 [アクション (Actions)] 領域で [削除準備を元に戻す (Undo Prepare for Removal)] をクリックします。
- ステップ6 [OK] をクリックして確定します。

専用ホットスペアにする

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] タブをクリックします。
- ステップ2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。
- ステップ3 [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ4 [Physical Drives] 領域で、専用ホットスペアを作成する未設定の適切なドライブを選択します。
- ステップ5 [アクション (Actions)] 領域で [専用ホットスペアにする (Make Dedicated Hot Spare)] をクリックします。

[専用ホットスペアにする (Make Dedicated Hot Spare)] ダイアログボックスが表示されます。

- ステップ6 [仮想ドライブの詳細 (Virtual Drive Details)] 領域で、次のプロパティを更新します。

名前	説明
[仮想ドライブ番号 (Virtual Drive Number)] ドロップダウンリスト	物理ドライブをホットスペアとして専用にする仮想ドライブを選択します。
[仮想ドライブ名 (Virtual Drive Name)] フィールド	選択された仮想ドライブの名前。
[専用ホットスペアの作成 (Make Dedicated Hot Spare)] ボタン	専用のホットスペアを作成します。
[Cancel] ボタン	ダイアログボックスが開いているときに行われた変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

ステップ7 [専用ホットスペアにする (Make Dedicated Hot Spare)] をクリックして確定します。

グローバルホットスペアにする

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] タブをクリックします。
 - ステップ2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。
 - ステップ3 [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。
 - ステップ4 [Physical Drives] 領域で、グローバルホットスペアを作成する未設定の適切なドライブを選択します。
 - ステップ5 [アクション (Actions)] 領域で [グローバルホットスペアにする (Make Global Hot Spare)] をクリックします。
-

ホットスペアプールからのドライブの削除

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。
 - ステップ2 [ストレージ (Storage)] タブで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
 - ステップ3 作業ペインで [物理ドライブ情報 (Physical Drive Info)] タブをクリックします。
 - ステップ4 [物理ドライブ (Physical Drives)] 領域で、ホットスペアプールから削除するグローバルホットスペアまたは専用ホットスペアを選択します。
 - ステップ5 [アクション (Actions)] 領域で [ホットスペアプールから削除 (Remove From Hot Spare Pools)] をクリックします。
-

物理ドライブのステータスの切り替え

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- コントローラは、JBOD モードをサポートする必要があり、JBOD モードはイネーブルにする必要があります。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインの **[Storage]** タブをクリックします。

ステップ 2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。

ステップ 3 [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。

ステップ 4 [Physical Drives] 領域で、unconfigured good として設定するドライブを選択します。

ステップ 5 **[Actions]** 領域で、**[Set State as Unconfigured Good]** をクリックします。

ステップ 6 **[OK]** をクリックして、JBOD モードがディセーブルになっていることを確認します。

[Set State as JBOD] オプションがイネーブルになります。

ステップ 7 物理ドライブの JBOD モードをイネーブルにするには、**[Set State as JBOD]** をクリックします。

ステップ 8 **[OK]** をクリックして確定します。

[Set State as Unconfigured Good] オプションがイネーブルになります。

コントローラのブート ドライブとしての物理ドライブの設定

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- コントローラは、JBOD モードをサポートする必要があり、JBOD モードはイネーブルにする必要があります。

手順

ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。

ステップ 2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。

ステップ 3 [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。

ステップ 4 [Physical Drives] 領域で、コントローラのブート ドライブとして設定するドライブを選択します。

ステップ5 [アクション (Actions)] 領域で、[ブートドライブとして設定 (Set as Boot Drive)] をクリックします。

ステップ6 [OK] をクリックして確定します。

仮想ドライブの初期化

ドライブを初期化すると、仮想ドライブ上のすべてのデータが失われます。初期化を実行する前に、保存する仮想ドライブのデータをバックアップします。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。

ステップ2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。

ステップ3 [RAID Controller] 領域で、[Virtual Drive Info] タブをクリックします。

ステップ4 [Virtual Drives] 領域で、初期化するドライブを選択します。

ステップ5 [アクション (Actions)] 領域で [初期化 (Initialize)] をクリックします。

[仮想ドライブの初期化 (Initialize Virtual Drive)] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ6 仮想ドライブに使用する初期化のタイプを選択します。

次のいずれかになります。

- [Fast Initialize] : このオプションは、仮想ドライブへのデータの書き込みをすぐに開始できます。
- [完全初期化 (Full Initialize)] : 新しい設定で完全な初期化が実行されます。初期化が完了するまで、新しい仮想ドライブにデータを書き込むことができません。

ステップ7 [VDの初期化 (Initialize VD)] をクリックしてドライブを初期化するか、[キャンセル (Cancel)] をクリックして、変更を行わずにダイアログボックスを閉じます。

ステップ8 ドライブで実行しているタスクのステータスを表示するには、[操作 (Operations)] 領域で [更新 (Refresh)] をクリックします。

次の詳細情報が表示されます。

名前	説明
[Operation]	ドライブで現在実行中の操作の名前。
[Progress in %]	操作の進行状況 (完了した割合)。

名前	説明
[Elapsed Time in secs]	操作開始から経過した時間（秒数）。

ブートドライブとして設定

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ 2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。
- ステップ 3 [RAID Controller] 領域で、[Virtual Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Virtual Drives] 領域で、コントローラが起動する必要があるドライブを選択します。
- ステップ 5 [アクション (Actions)] 領域で、[ブートドライブとして設定 (Set as Boot Drive)]をクリックします。
- ステップ 6 [OK] をクリックして確定します。

仮想ドライブの編集

手順

- ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ 2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。
- ステップ 3 [RAID Controller] 領域で、[Virtual Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Virtual Drives] 領域で、[Edit Virtual Drive] をクリックします。
- ステップ 5 この説明を確認してから、[OK] をクリックします。
[仮想ドライブの編集 (Edit Virtual Drive)]ダイアログボックスが表示され、その後データのバックアップを作成するよう指示されます。
- ステップ 6 [Select RAID Level to migrate] ドロップダウンリストから、RAID レベルを選択します。
RAID のマイグレーション基準については次の表を参照してください。

名前	説明
<p>[Select RAID Level to migrate] ドロップダウンリスト</p>	<p>移行する RAID レベルを選択します。移行は次の RAID レベルで許可されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [RAID 0] から [RAID 1] へ • [RAID 0] から [RAID 5] へ • [RAID 0] から [RAID 6] へ • [RAID 1] から [RAID 0] へ • [RAID 1] から [RAID 5] へ • [RAID 1] から [RAID 6] へ • [RAID 5] から [RAID 0] へ • [RAID 6] から [RAID 0] へ • [RAID 6] から [RAID 5] へ <p>ある raid レベルから別のレベルに移行する場合、新しい RAID レベルのデータ アームは、既存のもの以上である必要があります。</p> <p>RAID 6 の場合、RAID 6 には二重分散パリティがあるため、データ アームはドライブ数から 2 を引いた数になります。たとえば、8 台のドライブで RAID 6 を作成する場合、データ アームの数は $8 - 2 = 6$ となります。この場合、RAID 6 から RAID 0 に移行する場合は、RAID 0 には最低 6 台のドライブが必要です。それより少ないドライブ数を選択すると、[Edit] または [Save] ボタンが無効になります。</p> <p>追加する場合は、ドライブを削除しないままで RAID 0 に移行できます。</p> <p>(注) RAID レベルの移行は、次の場合にはサポートされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • RAID グループに複数の仮想ドライブがある場合。 • SSD/HDD RAID グループの組み合わせがある場合。

ステップ 7 [Virtual Drive Properties] 領域の [Write Policy] ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。

- [Write Through] : データがキャッシュによって、物理ドライブに書き込まれます。以降はキャッシュからデータを読み取ることができるため、パフォーマンスが向上します。

- [ライトバック (Write Back)]: データはキャッシュ内に保管され、キャッシュにスペースが必要になった場合にのみ物理ドライブに書き込まれます。電源障害の発生時に BBU でキャッシュの安全を保障できない場合、このポリシーを要求する仮想ドライブは [ライトスルー (Write Through)] キャッシングにフォールバックします。
- [書き込みバック不良 BBU (Write Back Bad BBU)]: このポリシーでは、バッテリー バックアップユニットに欠陥があったり、放電していたりする場合でも、書き込みキャッシングは [書き込みバック (Write Back)] のままです。

ステップ 8 [Save Changes] をクリックします。

仮想ドライブの削除



重要 このタスクでは、仮想ドライブ (ブートされたオペレーティングシステムを実行するドライブを含む) を削除します。そのため、仮想ドライブを削除する前に、保持するデータをバックアップします。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。
- ステップ 2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。
- ステップ 3 [RAID Controller] 領域で、[Virtual Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Virtual Drives] 領域で、削除する仮想ドライブを選択します。
- ステップ 5 [アクション (Actions)] 領域で、[仮想ドライブの削除 (Delete Virtual Drive)] をクリックします。
- ステップ 6 [OK] をクリックして確定します。

仮想ドライブの非表示化

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。
- ステップ3 [RAID Controller] 領域で、[Virtual Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ4 [Virtual Drives] 領域で、非表示にする仮想ドライブを選択します。
- ステップ5 [アクション (Actions)]領域で、[ドライブの非表示 (Hide Drive)]をクリックします。
- ステップ6 [OK] をクリックして確定します。

バッテリーバックアップユニットの学習周期の開始

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。
- ステップ3 [RAID Controller] 領域で、[Battery Backup Unit] タブをクリックします。
- ステップ4 [Actions] ペインで [Start Learn Cycle] をクリックします。
ダイアログでタスクを確認するためのプロンプトが表示されます。
- ステップ5 [OK] をクリックします。

ストレージコントローラ ログの表示

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ2 [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。
- ステップ3 [RAID Controller] 領域で、[Storage Log] タブをクリックし、次の情報を確認します。

名前	説明
[Time] カラム	イベントが発生した日時。
[Severity] カラム	イベントのシビラティ（重大度）。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • 緊急（Emergency） • アラート（Alert） • クリティカル（Critical） • エラー（Error） • Warning • 通知（Notice） • 情報（Informational） • デバッグ（Debug）
[Description] カラム	イベントの説明。

MegaRAID コントローラの SSD スマート情報の表示

ソリッドステートドライブのスマート情報を表示できます。次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインの **[Storage]** タブをクリックします。

ステップ 2 [ストレージ (Storage)] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。

ステップ 3 作業ペインで [物理ドライブ情報 (Physical Drive Info)] タブをクリックします。

ステップ 4 [スマート情報 (Smart Information)] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[電源再投入カウント (Power Cycle Count)] フィールド	ドライブが製造されてから現在までに電源の再投入が行われた回数。
[電源オン時間 (Power on Hours)] フィールド	ドライブが「電源オン」モードになっている合計時間数。

名前	説明
[残量 (パーセンテージ) (Percentage Life Left)]フィールド	半導体ドライブ (SSD) のライフタイムで残っている書き込みサイクルの回数。たとえば、ライフタイムを通して 100 回の書き込みサイクルに対応できる SSD で 15 回の書き込みが行われた場合、ドライブのライフタイムの残りのパーセンテージは 85% となります。パーセンテージの各範囲は異なる色で表されます。たとえば、75% ~ 100% は緑、1% ~ 25% は赤で表されます。
[消耗ステータス (日数) (Wear Status in Days)]フィールド	SSD で書き込みサイクルが行われた日数。 SSD ベンダーが提示する 1 日あたりの SSD 書き込みの有限回数に基づいて、SSD が機能し続ける合計年数を計算できます。
[動作温度 (Operating Temperature)]フィールド	選択した SSD が、それを選択した時点で動作していたドライブの温度。
[消費された予約済みの容量の割合 (Percentage Reserved Capacity Consumed)]フィールド	(SSD 用に予約されているパーセンテージのうち) SSD が消費する合計容量。
[前回の更新時刻 (Time of Last Refresh)]フィールド	ドライブが最後に更新されてからの時間。

NVMe コントローラの詳細の表示

始める前に

- サーバーの電源をオンにする必要があります。

手順

- ステップ 1** [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ 2** [ストレージ (Storage)]メニューで、適切な NVMe コントローラをクリックします。
- ステップ 3** [Controller] 領域に、[Controller Info] タブがデフォルトで表示されます。
- ステップ 4** [Work] ペインの[Health/Status] 領域で次の情報を確認します。

名前	説明
[複合状態 (Composite Health)] フィールド	<p>コントローラの状態。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [良好 (Good)] : コントローラ下のすべてのドライブは最適な状態です。 • [重大な障害 (Severe Fault)] : コントローラ下の1つまたは複数のドライブが不良状態のときに表示されます。 • 該当なし
[ドライブ数 (Drive Count)] フィールド	コントローラ上で設定されているドライブの数。

ステップ 5 [製造者情報 (Manufacturer Information)] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[Vendor ID] フィールド	NVMe コントローラのベンダ ID。
[Product ID] フィールド	コントローラの製品 ID。
[コンポーネントID (Component ID)] フィールド	NVMe コントローラのコンポーネント ID。
[Product Revision] フィールド	ボードのリビジョン番号 (存在する場合) 。

ステップ 6 [グループPCI情報 (Group PCI Info))] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[Vendor ID] フィールド	PCI ベンダー ID (16 進) 。
[Device ID] フィールド	PCI デバイス ID (16 進) 。

ステップ 7 [グループファームウェア情報 (Group Firmware Information)] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[実行中のファームウェアイメージ (Running Firmware Images)] フィールド	NVMe ドライブのファームウェアバージョン。

ステップ 8 [グループスイッチ情報 (Group Switch Information)] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[Temperature] フィールド	スイッチの温度 (摂氏) 。

名前	説明
[スイッチステータス (Switch Status)]フィールド	<p>スイッチの現在のステータス。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Optimal] : コントローラは正常に機能しています。 • [Failed] : コントローラは機能していません。 • [Unresponsive] : コントローラがダウンしています。
[リンクステータス (Link Status)]フィールド	<p>リンクの現在の状態。このフィールドは、スイッチのアップストリームまたはダウンストリームのリンクのいずれかがダウンしているかどうかを示します。個々のドライブにも、どのドライブが原因でスイッチのリンクの状態がリンク低下を示しているかを特定するために使用できるリンクのステータスがあります。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Optimal] : コントローラは正常に機能しています。 • [Failed] : コントローラは機能していません。 • [Unresponsive] : コントローラがダウンしています。
[シャットダウン温度 (Shutdown Temperature)]フィールド	<p>これは、これを超えるとスイッチの安全な動作が保証できず、システムをシャットダウンすることが推奨される温度です。</p>

NVMe 物理ドライブの詳細の表示

始める前に

- サーバーの電源をオンにする必要があります。

手順

ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。

ステップ 2 [ストレージ (Storage)]メニューで、適切な NVMe コントローラをクリックします。

ステップ 3 [物理ドライブ (Physical Drive)]タブをクリックし、次の情報を確認します。

名前	説明
[物理ドライブ (Physical Drives)] カラム	使用可能な物理ドライブのリスト。
[PCI Slot] カラム	物理ドライブが存在する PCI スロット番号。
[Managed ID] カラム	デバッグで参照される内部 ID。
[Product Name] カラム	ベンダーによって割り当てられたドライブの名前。
[Firmware Version] カラム	ドライブで実行されているファームウェアバージョン。
[Vendor] カラム	ドライブのベンダー名。
[Serial Number] カラム	ドライブのシリアル番号。

ステップ 4 [物理ドライブ (Physical Drives))] 詳細

(注) リストされた物理ドライブのいずれかを展開すると、物理ドライブのこれらの詳細が表示されます。

名前	説明
[PCI Slot] フィールド	物理ドライブが存在する PCI スロット番号。
[Managed ID] カラム	デバッグで参照される内部 ID。
[Throttle State] フィールド	スロットルの状態。
[Serial Number] フィールド	コントローラのシリアル番号。
[チップの温度 (Chip Temperature)] フィールド	ドライブの温度 (摂氏)。これはドライブの内部センサで読み取られた最高温度です。
[Percentage Drive Life Used] フィールド	ドライブ ライフタイムのうち、使用された時間のパーセンテージ。
[Device ID] フィールド	PCI デバイス ID (16 進)。
[Sub Device ID] フィールド	PCI サブデバイス ID (16 進)。

名前	説明
[Drive Status] フィールド	デバイスの状態。
[パフォーマンス レベル (Performance Level)] フィールド	ドライブのパフォーマンスを示します。
[Shutdown Temperature] フィールド	ドライブがシャットダウンする温度。
[電源オン総時間の割合 (Percentage of Total Power On Hours)] フィールド	ドライブが電源オンであった時間の割合。
[Vendor ID] フィールド	PCI ベンダー ID (16 進)。
[SubVendor ID] フィールド	PCI サブベンダー ID (16 進)。
[LED Fault Status] フィールド	LED 障害のステータス。
[Controller Temperature] フィールド	コントローラの温度 (摂氏)。これは、NVMe サブシステム ID の全体的な合成温度です。
[実行中のファームウェアイメージ (Running Firmware Images)] フィールド	NVMe ドライブのファームウェアバージョン。
[Throttle Start Temperature] フィールド	ドライブがスロットルを開始する温度。

PCI スイッチの詳細の表示

始める前に

サーバーの電源をオンにする必要があります。そうしないと、プロパティが表示されません。

手順

- ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ 2 [**Storage**] メニューで、適切な **PCI スイッチ** コントローラをクリックします。次の情報を確認します。
[コントローラ (Controller)] 領域

名前	説明
[Composite Health] フィールド	PCI スイッチの全体的なヘルス ステータスを示します。修正可能なまたは修正不可能なエラーがあるかどうかを表示し、またアップストリームおよびダウンストリーム ポートのステータスを反映されます。
[PCI スロット (PCI Slot)] フィールド	コントローラが装着されている PCI スロット。
[コントローラタイプ (Controller Type)] フィールド	スロットに存在する PCI コントローラのタイプ。
[製品名 (Product Name)] 列	PCI コントローラの名前。
[製品リビジョン (Revision)] カラム	コントローラ設定のリビジョン情報を表示します。

[スイッチ情報 (Switch Information)] 領域

名前	説明
[Temperature] フィールド	スイッチの温度 (摂氏)。

[製造者情報 (Manufacturer Information))] 領域

名前	説明
[製造元 (Manufacturer)] カラム	PCI スイッチのベンダー。
[ベンダー ID (Vendor ID)] カラム	ベンダーによって割り当てられたスイッチ ID。
[サブベンダー ID (Sub Vendor ID)] カラム	ベンダーによって割り当てられた 2 番目のスイッチ ID。
[Device ID] カラム	ベンダーによって割り当てられたデバイス ID。
[Sub Device ID] カラム	ベンダーによって割り当てられているセカンダリ デバイス ID。

[GPUとPCIアダプタ (GPU and PCI Adapters)] 領域

名前	説明
[Slot] カラム	GPU または PCI アダプタが存在するスロットの ID。

名前	説明
[リンクステータス (Status)] カラム	リンクの現在の状態。このフィールドは、スイッチのアップストリームまたはダウンストリームのリンクのいずれかがダウンしているかどうかを示します。
[リンク速度(GT/s) (Link Speed (GT/s))]カラム	PCI スロットに装着されているアダプタ カードの速度を表示します。
[リンク幅 (Link Width)]カラム	The number of data lanes of the link. リンクのデータ レーンの数。
[ステータス (Status)]カラム	アダプタのステータス。

コピーバック操作の開始

手順

- ステップ 1** [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ 2** [Storage] メニューで、該当する LSI MegaRAID または HBA コントローラをクリックします。
- ステップ 3** [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ 4** [物理ドライブ (Physical Drives)]領域で、オンライン状態のドライブを選択します。
- ステップ 5** [アクション (Actions)]領域で、[コピーバックの開始 (Start Copyback)]をクリックします。
- ステップ 6** [コピーバック操作の開始 (Start Copyback Operation)]ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 7** コピーバック操作を行う [コピー先物理ドライブ (Destination Physical Drive))]を選択します。
- ステップ 8** [コピーバックの開始 (Start Copyback)]をクリックします。
- ステップ 9** 次のコピーバック操作を行うこともできます。
- [コピーバックの中断 (Pause Copyback)]: ドライブがコピーバック状態の場合に、コピーバック操作を一時停止できます。
 - [コピーバックの再開 (Resume Copyback)]: 一時停止したコピーバック操作を再開することができます。
 - [コピーバックの中止 (Abort Copyback)]: ドライブがコピーバック状態の場合に、コピーバック操作を中止できます。

Flexible Flash コントローラの管理

Cisco Flexible Flash

M5 サーバでは、Flexible Flash コントローラはミニストレージモジュールソケットに挿入されます。ミニストレージソケットはマザーボードのM.2スロットに挿入されます。M.2スロットはSATA M.2 SSD スロットもサポートしています。



(注) M.2 スロットは、このリリースでは NVMe をサポートしていません。

C シリーズラックマウントサーバの中には、サーバソフトウェアツールおよびユーティリティのストレージとして、内蔵 Secure Digital (SD) メモリカードをサポートしているものがあります。この SD カードは Cisco Flexible Flash ストレージアダプタでホストされます。

Cisco IMC では、単一ハイパーバイザ (HV) パーティション構成として SD ストレージが使用可能です。以前のバージョンでは4つの仮想 USB ドライブがありました。3つには Cisco UCS Server Configuration Utility、Cisco ドライバ、および Cisco Host Upgrade Utility が事前ロードされ、4番目はユーザインストールによるハイパーバイザでした。また、Cisco IMC の最新バージョンにアップグレードするか、旧バージョンにダウングレードした後、設定をリセットした場合にも、単一 HV パーティション構成が作成されます。

M.2 ドライブのインストールおよび設定の詳細については、次の URL にある C240 M5 サーバ用の『Cisco UCS サーバインストールおよびサービスガイド』の「ストレージコントローラに関する考慮事項 (組み込み SATA RAID の要件)」および「M.2 用ミニストレージキャリア内の M.2 SSD の交換」のセクションを参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-c-series-rack-servers/products-installation-guides-list.html>

シスコソフトウェアユーティリティおよびパッケージの詳細については、次の URL の『Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap』を参照してください。

<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc>

Cisco Flexible Flash コントローラのカード管理機能

Cisco Flexible Flash コントローラでは、単一のカードに加えて2つの SD カードを RAID-1 ペアとして管理できます。カード管理機能の導入により、次の作業を実行できます。



- (注)
- バージョン 1.4(5e) から 1.5(4) 以降のバージョンにアップグレードする場合は、まずバージョン 1.5(2) にアップグレードしてから、Cisco IMC の上位バージョンにアップグレードする必要があります。
 - すべての Cisco IMC ファームウェアのアップグレード後に、最新の Flex Flash ファームウェアをロードするには、Cisco Flexible Flash コントローラをリセットします。

アクション	説明
Reset Cisco Flex Flash	コントローラをリセットできます。
Reset Partition Defaults	選択したスロットの設定をデフォルト設定にリセットできます。
Synchronize Card Configuration	ファームウェア バージョン 253 以降をサポートする SD カードの設定を保持できます。
Configure Operational Profile	選択した Cisco Flexible Flash コントローラの SD カードを設定できます。

RAID パーティションの列挙

非 RAID パーティションは常にプライマリ カードから列挙されます。列挙はプライマリ カードのステータスに依存しません。

次に、Cisco Flexible Flash コントローラに 2 枚のカードがあるときの RAID パーティションの列挙の動作を示します。

シナリオ	動作
シングル カード	RAID パーティションは、カードが正常に動作している場合、およびモードが Primary または Secondary-active の場合に列挙されます。
デュアル ペア カード	RAID パーティションは、カードの 1 つが正常に動作していれば列挙されます。 1 枚のカードだけが正常に動作している場合、すべての読み取り/書き込み操作は、この正常に動作しているカードで行われます。2 つの RAID パーティションを同期するには UCSSCU を使用する必要があります。

シナリオ	動作
デュアル非ペアカード	<p>サーバを再起動するときにこのシナリオが検出された場合、RAIDパーティションはいずれも列挙されません。</p> <p>サーバが稼働しているときにこのシナリオが検出された場合、ユーザが新しいSDカードを取り付けても、そのカードは Cisco Flexible Flash コントローラによって管理されません。これはホストの列挙には影響しません。これらを管理するためにカードをペアにする必要があります。カードをペアにするには、[Reset Partition Defaults] または [Synchronize Card Configuration] オプションを使用できます。</p>

FlexFlash でのシングルカードミラーリングからデュアルカードミラーリングへのアップグレード

次のいずれかの方法で、FlexFlash を使用したシングルカードミラーリングからデュアルカードミラーリングにアップグレードできます。

- サーバーに空の FlexFlash カードを追加し、最新バージョンにファームウェアをアップグレードします。
- FlexFlash ファームウェアを最新バージョンにアップグレードした後、空のカードをサーバーに追加します。

このいずれかの方法を使用する前に、次のガイドラインに注意してください。

- RAID1 ミラーリングを作成するには、サーバーに追加される空のカードのサイズが、サーバー上の既存のカードと正確に同じである必要があります。RAID1 ミラーリングをセットアップするうえで、同じカードサイズは必須事項です。
- ハイパーバイザパーティション内の有効なデータを持つカードが、プライマリ正常カードとしてマークされていることを確認してください。Cisco IMC GUI または Cisco IMC CLI でこの状態を判別できます。カードの状態をプライマリ正常としてマークするには、Cisco IMC GUI の **[Reset Configuration]** オプションを使用するか、Cisco IMC CLI で **reset-config** コマンドを実行することができます。特定のカードの設定をリセットすると、セカンダリカードはセカンダリアクティブ非正常としてマークされます。
- RAID 正常性「Degraded」状態である場合、すべての読み取りおよび書き込みトランザクションは正常なカードで実行されます。このシナリオでは、データのミラーリングは行われません。データのミラーリングは、正常な RAID 状態の場合にのみ行われます。
- データのミラーリングは RAID パーティションにのみ適用されます。C シリーズサーバーでは、RAID モードでハイパーバイザパーティションだけが動作します。

- 旧バージョンで使用するよう SD カードを設定していない場合、最新バージョンにアップグレードすると最新の 253 ファームウェアがロードされ、4 個のパーティションすべてがホストに列挙されます。

FlexFlash バージョンのアップグレード中に次のエラー メッセージが表示される場合があります。

```
Unable to communicate with Flexible Flash controller: operation ffCardsGet, status  
CY_AS_ERROR_INVALID_RESPONSE"
```

さらに、カードステータスが [missing] と示されることもあります。このエラーが発生する原因は、1.4(x) などの代替リリースまたは旧バージョンに意図せず切替えたためです。このシナリオでは、最新バージョンに戻すか、元の FlexFlash 1.4(x) 設定に切り替えることができます。最新の Cisco IMC バージョンに戻すことを選択した場合、Cisco FlexFlash 設定はそのまま残ります。旧バージョンの設定に切り替えることを選択した場合は、Flexflash 設定をリセットする必要があります。その場合、次の点に注意する必要があります。

- 複数のカードが存在する状態で旧バージョンに戻すと、2 番目のカードを検出したり管理したりすることはできません。
- カードタイプが SD253 である場合、Cisco IMC CLI から **reset-config** コマンドを 2 回実行する必要があります。1 回目は古いファームウェアをコントローラに再ロードして SD253 から SD247 タイプに移行し、2 回目の実行では列挙を開始します。

Flexible Flash コントローラ プロパティの設定

Cisco IMC の最新バージョンにアップグレードするか、以前のバージョンにダウングレードしてから設定をリセットすると、サーバーは HV パーティションだけにアクセスします。

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- お使いのプラットフォームで Cisco Flexible Flash がサポートされている必要があります。



(注) このタスクを実行すると、ホストですべての仮想ドライブが再スキャンされるため、仮想ドライブに接続できなくなります。仮想ドライブを使用する前に Cisco Flexible Flash コントローラを設定するか、このタスクを開始する前にホストの電源を切ることをお勧めします。

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Storage] タブをクリックします。
- ステップ 2** [ストレージ (Storage)] タブの [Cisco FlexFlash] をクリックします。
- ステップ 3** [Controller Info] タブの [Configure Operational Profile] をクリックします。

ステップ 4 [Operational Profile] ダイアログボックスで、次のフィールドを更新します。

表 1: C220、C240、C22、C24、C460 M4 の操作プロファイル フィールド

名前	説明
[Controller] フィールド	<p>選択された Cisco Flexible Flash コントローラのシステム定義名。</p> <p>この名前は変更できません。</p>
[Virtual Drives Enabled] フィールド	<p>USB 形式のドライブとして、サーバに対して使用可能にできる仮想ドライブ。</p> <p>単一の HV パーティションに対するチェックボックスが表示されます。</p> <p>(注) 旧バージョンでは、各仮想ドライブに対して 4 個のチェックボックスが表示されます。単一パーティションを既に作成し、旧バージョンの Cisco IMC にダウングレードした場合、HV のみが有効であっても他の仮想ドライブが表示されます。</p>
[RAID Primary Member] フィールド	プライマリ RAID メンバが存在するスロット。
[RAID セカンダリ ロール (RAID Secondary Role)] フィールド	値として secondary-active を指定する必要があります。
[I/O Read Error Threshold] フィールド	<p>Cisco Flexible Flash カードへのアクセス中に許容される読み取りエラーの数。あるカードでの読み取りエラーの数がこのしきい値を超えた場合、そのカードには正常でないというマークが付けられます。</p> <p>読み取りエラーしきい値を指定するには、1 以上 255 以下の整数を入力します。検出されたエラー数に関係なく、カードが無効にならないように指定するには、0 (ゼロ) を入力します。</p>
[I/O 書き込みエラーしきい値 (I/O Write Error Threshold)] フィールド	<p>Cisco Flexible Flash カードへのアクセス中に許可される書き込みエラーの数。あるカードでの書き込みエラーの数がこのしきい値を超えた場合、そのカードには正常でないというマークが付けられます。</p> <p>書き込みエラーしきい値を指定するには、1 以上 255 以下の整数を入力します。検出されたエラー数に関係なく、カードが無効にならないように指定するには、0 (ゼロ) を入力します。</p>

名前	説明
[エラーをクリア (Clear Errors)] チェックボックス	オンにした場合、[変更を保存 (Save Changes)] をクリックすると、読み取り/書き込みエラーがクリアされます。

- (注)
- 次の表は、C220 M4 および C240 M4 サーバーでのみ有効です。
 - [Mirror] モードでは、[Slot1 Read/Write Error Threshold] が両方の SD カード (2 枚のカードがある場合) に適用されます。
 - [Util] モードでは、[Slot1 Read/Write Error Threshold] がスロット 1 のカードに適用され、[Slot2 Read/Write Error Threshold] がスロット 2 のカードに適用されます。

表 2: C220 M4、C240 M4 の操作プロファイル フィールド

名前	説明
[Controller] フィールド	選択された Cisco Flexible Flash コントローラのシステム定義名。 この名前は変更できません。
[ファームウェア動作モード (firmware Operating Mode)] F フィールド	現在のファームウェア動作モード。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Mirror] • [Util]
[スロット 1 読み取りエラーしきい値 (SLOT-1 Read Error Threshold)] フィールド	Cisco Flexible Flash カードのスロット 1 へのアクセス中に許容される読み取りエラーの数。あるカードでの読み取りエラーの数がこのしきい値を超えた場合、そのカードには正常でないというマークが付けられます。 読み取りエラーしきい値を指定するには、1 以上 255 以下の整数を入力します。検出されたエラー数に関係なく、カードが無効にならないように指定するには、0 (ゼロ) を入力します。
[SLOT-1 Write Error Threshold] フィールド	Cisco Flexible Flash カードのスロット 1 へのアクセス中に許容される書き込みエラーの数。あるカードでの書き込みエラーの数がこのしきい値を超えた場合、そのカードには正常でないというマークが付けられます。 書き込みエラーしきい値を指定するには、1 以上 255 以下の整数を入力します。検出されたエラー数に関係なく、カードが無効にならないように指定するには、0 (ゼロ) を入力します。

名前	説明
[SLOT-2 Read Error Threshold] フィールド	<p>Cisco Flexible Flash カードのスロット 2 へのアクセス中に許容される読み取りエラーの数。あるカードでの読み取りエラーの数がこのしきい値を超えた場合、そのカードには正常でないというマークが付けられます。</p> <p>読み取りエラーしきい値を指定するには、1 以上 255 以下の整数を入力します。検出されたエラー数に関係なく、カードが無効にならないように指定するには、0 (ゼロ) を入力します。</p>
[SLOT-2 Write Error Threshold] フィールド	<p>Cisco Flexible Flash カードのスロット 2 へのアクセス中に許容される書き込みエラーの数。あるカードでの書き込みエラーの数がこのしきい値を超えた場合、そのカードには正常でないというマークが付けられます。</p> <p>書き込みエラーしきい値を指定するには、1 以上 255 以下の整数を入力します。検出されたエラー数に関係なく、カードがディセーブルにならないように指定するには、0 (ゼロ) を入力します。</p>

ステップ 5 [運用プロファイル (Operational Profile)] ダイアログボックスで、次のフィールドを更新します。

表 3: M5 サーバーの操作プロファイル フィールド

名前	説明
[Controller] フィールド	<p>選択された Cisco Flexible Flash コントローラのシステム定義名。</p> <p>この名前は変更できません。</p>
[Firmware Operating Mode] フィールド	<p>システムによって表示されるメッセージ。ファームウェアの動作モードがミラーとして表示されます。</p>
[スロット 1 読み取りエラーしきい値 (SLOT-1 Read Error Threshold)] フィールド	<p>Cisco Flexible Flash カードのスロット 1 へのアクセス中に許容される読み取りエラーの数。あるカードでの読み取りエラーの数がこのしきい値を超えた場合、そのカードには正常でないというマークが付けられます。</p> <p>読み取りエラーしきい値を指定するには、1 以上 255 以下の整数を入力します。検出されたエラー数に関係なく、カードが無効にならないように指定するには、0 (ゼロ) を入力します。</p>

名前	説明
[SLOT-1 Write Error Threshold] フィールド	<p>Cisco Flexible Flash カードのスロット 1 へのアクセス中に許容される書き込みエラーの数。あるカードでの書き込みエラーの数がこのしきい値を超えた場合、そのカードには正常でないというマークが付けられます。</p> <p>書き込みエラーしきい値を指定するには、1 以上 255 以下の整数を入力します。検出されたエラー数に関係なく、カードが無効にならないように指定するには、0 (ゼロ) を入力します。</p>

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

Flexible Flash コントローラ ファームウェア モードの設定

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- お使いのプラットフォームで Cisco Flexible Flash がサポートされている必要があります。



(注) このタスクを実行すると、ホストですべての仮想ドライブが再スキャンされるため、仮想ドライブに接続できなくなります。仮想ドライブを使用する前に Cisco Flexible Flash コントローラのプロパティを設定するか、このタスクを開始する前にホストの電源を切ることをお勧めします。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインの [Storage] タブをクリックします。

ステップ 2 [ストレージ (Storage)] タブの [Cisco FlexFlash] をクリックします。

ステップ 3 [Actions] 領域で、[Configure Firmware Mode] をクリックします。

ステップ 4 確認ボックスで [OK] をクリックします。

コントローラ ファームウェア モードを現在のファームウェア モードから他のモードに切り替えます。

Flexible Flash コントローラ カードの設定

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- お使いのプラットフォームで Cisco Flexible Flash がサポートされている必要があります。



(注) このタスクを実行すると、ホストですべての仮想ドライブが再スキャンされるため、仮想ドライブに接続できなくなります。仮想ドライブを使用する前に Cisco Flexible Flash コントローラのプロパティを設定するか、このタスクを開始する前にホストの電源を切ることをお勧めします。

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインの **[Storage]** タブをクリックします。
- ステップ 2** [ストレージ (Storage)] タブの **[Cisco FlexFlash]** をクリックします。
- ステップ 3** [Actions] 領域で、**[Configure Cards]** をクリックします。
[Configure Cards] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** [Configure Cards] ダイアログボックスで、次のフィールドを更新します。

名前	説明
[Mirror] オプション ボタン	<p>次を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ミラーパーティション名 (Mirror Partition Name)] フィールド：パーティションに割り当てる名前。 • [自動同期 (Auto Sync)] チェックボックス：このチェックボックスをオンにすると、選択したプライマリ カードからのデータが自動的にセカンダリ カードと同期されます。 <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • このオプションを選択するには、2 つのカードが必要です。 • このオプションを選択すると、セカンダリカード上のデータが消去され、プライマリ カード上のデータで上書きされます。 • このステータスは、[物理ドライブ情報 (Physical Driver Info)] タブに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • [プライマリ カードの選択 (Select Primary Card)] ドロップダウン：プライマリ カードとして設定するスロットを選択します。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Slot1] • [Slot2]

名前	説明
<p>[ユーティリティ (Util)] オプション ボタン</p>	<p>ユーティリティ モードでカードを設定する場合は、このオプションを選択します。ユーティリティ モードでカードを設定すると、次の状況になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 選択したスロット内のカードで 4 つのパーティションが作成されて、SCU、HUU、ドライバの各ユーティリティに 1 つずつパーティションが割り当てられ、残りの 1 つはユーザが使用できるパーティションになり、カードは正常としてマークされます。 • もう一方のスロット内のカード（存在する場合）で単一のパーティションが作成されて、そのカードが正常としてマークされます。 • カードの読み取り/書き込みエラーカウントおよび読み取り/書き込みしきい値が 0 に設定されます。 • ホスト接続が中断される可能性があります。 • 設定済みカードがペアになります。 <p>次を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ユーザ パーティション名 (User Partition Name)] フィールド：ユーティリティ カードの 4 番目のパーティションに割り当てる名前。 • [非ユーティリティ カード パーティション名 (Non Util Card Partition Name)] フィールド：2 つ目のカード（存在する場合）上の単一のパーティションに割り当てる名前。 • [ユーティリティ カードの選択 (Select Util Card)] ドロップダウン：ユーティリティに設定するスロット。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Slot1] • [Slot2] • [None]：サーバーに SD カードが 1 枚ある場合にのみ適用されます。

ステップ 5 [Configure Cards] ダイアログボックスで、次のフィールドを更新します。

名前	説明
[Mode] フィールド	モードタイプをミラーとして表示します。

名前	説明
[ミラーパーティション名 (Mirror Partition Name)] フィールド	パーティションに割り当てる名前。
[自動同期 (Auto Sync)] チェックボックス	このチェックボックスをオンにすると、選択したプライマリカードからのデータが自動的にセカンダリカードと同期されます。 (注) <ul style="list-style-type: none"> • このオプションを選択するには、カードが2枚必要です。 • このオプションを選択すると、セカンダリカードのデータは消去され、プライマリカードのデータで上書きされます。 • このステータスは、[仮想ドライブ (Virtual Drive)] タブに表示されます。
[Select Primary Card] ドロップ ダウン	プライマリカードとして設定するスロット。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Slot1] • [Slot2]
[仮想ドライブ (Virtual Drive)] ドロップ ダウン	仮想ドライブのタイプ。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • 削除可能 • 削除不可能

ステップ 6 [Save] をクリックします。

カードが選択したモードで設定されます。

Flexible Flash カードからのブート

Cisco Flexible Flash カード上に、ブート可能な仮想ドライブを指定できます。これは、サーバーに定義されているデフォルトのブート順に関係なく、サーバーが次に再始動されたときに、デフォルトのブート優先順位を上書きします。指定したブート デバイスは一度だけ使用されます。サーバーがリブートした後、この設定は無効になります。Cisco Flexible Flash カードが使用可能な場合にのみ、ブート可能な仮想ドライブを選択できます。それ以外の場合は、サーバーはデフォルトのブート順を使用します。



- (注) サーバーをリブートする前に、選択した仮想ドライブが Cisco Flexible Flash カード上でイネーブルであることを確認します。[Storage] タブに移動してカードを選択し、[Virtual Drive Info] サブタブに進みます。

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- お使いのプラットフォームで Cisco Flexible Flash がサポートされている必要があります。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインの [Server] タブをクリックします。

ステップ 2 [Server] タブの [BIOS] をクリックします。

ステップ 3 [Actions] 領域で、[Configure Boot Override Priority] をクリックします。

[Boot Override Priority] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [Boot Override Priority] ドロップダウンリストから、起動元の仮想ドライブを選択します。

ステップ 5 [適用 (Apply)] をクリックします。

Flexible Flash コントローラのリセット

通常の操作では、Cisco Flexible Flash のリセットが必要になることはありません。テクニカルサポートの担当者から明確に指示された場合にだけ、この手順を実行することを推奨します。



- (注) この操作は、Cisco Flexible Flash コントローラ上の仮想ドライブへのトラフィックを中断させます。

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- お使いのプラットフォームで Cisco Flexible Flash がサポートされている必要があります。

手順

ステップ 1 [Storage Adapters] ペインの [Cisco FlexFlash] をクリックします。

ステップ2 [Cisco FlexFlash] ペインの [Controller Info] タブをクリックします。

ステップ3 [Actions] 領域で [Reset FlexFlash Controller] をクリックします。

ステップ4 [OK] をクリックして確定します。

仮想ドライブの有効化

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- お使いのプラットフォームで Cisco Flexible Flash がサポートされている必要があります。



(注) このタスクを実行すると、ホストですべての仮想ドライブが再スキャンされるため、仮想ドライブに接続できなくなります。仮想ドライブを使用する前に Cisco Flexible Flash コントローラのプロパティを設定することをお勧めします。

手順

ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] タブをクリックします。

ステップ2 [ストレージ (Storage)] タブの [Cisco FlexFlash] をクリックします。

ステップ3 [Virtual Drive Info] タブをクリックします。

ステップ4 [Virtual Drive Info] タブで、[Enable/Disable Virtual Drive(s)] をクリックします。

ステップ5 [Enable/Disable VD(s)] ダイアログボックスで、有効にする仮想ドライブを選択します。

ステップ6 [Save] をクリックします。

選択した仮想ドライブがホストで有効になります。

仮想ドライブの消去

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- お使いのプラットフォームで Cisco Flexible Flash がサポートされている必要があります。



(注) このタスクを実行すると、ホストですべての仮想ドライブが再スキャンされるため、仮想ドライブに接続できなくなります。仮想ドライブを使用する前に Cisco Flexible Flash コントローラのプロパティを設定することをお勧めします。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの **[Storage]** タブをクリックします。
- ステップ 2 [ストレージ (Storage)] タブの **[Cisco FlexFlash]** をクリックします。
- ステップ 3 [Virtual Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Virtual Drive Info] タブで、**[Erase Virtual Drive(s)]** をクリックします。
- ステップ 5 **[Erase Virtual Drive(s)]** ダイアログボックスで、消去する仮想ドライブを選択します。
- ステップ 6 **[Save]** をクリックします。
選択した仮想ドライブのデータが消去されます。

仮想ドライブの同期

始める前に

- このタスクを実行するには、**admin** 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- お使いのプラットフォームで **Cisco Flexible Flash** がサポートされている必要があります。
- カードはミラー モードにする必要があります。



(注) このタスクを実行すると、ホストですべての仮想ドライブが再スキャンされるため、仮想ドライブに接続できなくなります。仮想ドライブを使用する前に Cisco Flexible Flash コントローラのプロパティを設定することをお勧めします。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの **[Storage]** タブをクリックします。
- ステップ 2 [ストレージ (Storage)] タブの **[Cisco FlexFlash]** をクリックします。
- ステップ 3 [Virtual Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Virtual Drive Info] タブで、**[Sync Virtual Drive]** をクリックします。
- ステップ 5 確認ダイアログボックスで **[OK]** をクリックします。

仮想ドライブのハイパーバイザをプライマリ カードと同期させます。

ISO イメージ設定の追加

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- お使いのプラットフォームで Cisco Flexible Flash がサポートされている必要があります。
- カードは Util モードで設定する必要があります。



(注) このタスクを実行すると、ホストですべての仮想ドライブが再スキャンされるため、仮想ドライブに接続できなくなります。仮想ドライブを使用する前に Cisco Flexible Flash コントローラのプロパティを設定するか、このタスクを開始する前にホストの電源を切ることをお勧めします。

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインの **[Storage]** タブをクリックします。
- ステップ 2** [ストレージ (Storage)] タブの **[Cisco FlexFlash]** をクリックします。
- ステップ 3** [Virtual Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ 4** [Virtual Drive Info] タブで、イメージを追加する仮想ドライブを選択し、**[Add Image]** をクリックします。
- ステップ 5** [Add Image] ダイアログボックスで、次のフィールドを更新します。

名前	説明
[ボリューム (Volume)] フィールド	マッピング用にマウントしたイメージの ID。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [SCU] • [HUU] • [Drivers]
[Mount Type] ドロップダウン リスト	マッピングのタイプです。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [NFS] : ネットワーク ファイル システム。 • [CIFS] : 共通インターネット ファイル システム。

名前	説明
[リモート共有 (Remote Share)] フィールド	<p>マップするイメージの URL。形式は選択した [マウントタイプ (Mount Type)] に応じて異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NFS] : serverip:/share のパスを使用します。 • [CIFS] : //serverip/share のパスを使用します。
[Remote File] フィールド	<p>名前およびリモート共有の .iso ファイルの場所。次に、リモート共有ファイルの例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NFS] : /softwares/ucs-cxx-scu-3.1.9.iso • [CIFS] : /softwares/ucs-cxx-scu-3.1.9.iso
[マウント オプション (Mount Options)] フィールド	<p>カンマ区切りリストで入力される業界標準のマウント オプション。オプションは選択した [マウントタイプ (Mount Type)] に応じて異なります。</p> <p>[NFS] を使用している場合、フィールドを空白にしておくか、次のうちの 1 つ以上を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ro • rw • noexec • noexec • soft • port=VALUE • timeo=VALUE • retry=VALUE <p>[CIFS] を使用している場合、フィールドを空白にしておくか、次のうちの 1 つ以上を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • soft • nounix • noserverino
[ユーザ名 (User Name)] フィールド	<p>指定した [マウントタイプ (Mount Type)] のユーザ名 (必要な場合)。</p>
[パスワード (Password)] フィールド	<p>選択されたユーザー名のパスワード (必要な場合)。</p>

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

ISO イメージの更新

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- お使いのプラットフォームで Cisco Flexible Flash がサポートされている必要があります。
- このタスクは、カードが [Util] モードで設定されている場合にのみ使用できます。



(注) このタスクを実行すると、ホストですべての仮想ドライブが再スキャンされるため、仮想ドライブに接続できなくなります。仮想ドライブを使用する前に Cisco Flexible Flash コントローラのプロパティを設定するか、このタスクを開始する前にホストの電源を切ることをお勧めします。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインの [Storage] タブをクリックします。

ステップ 2 [ストレージ (Storage)] タブの [Cisco FlexFlash] をクリックします。

ステップ 3 [Virtual Drive Info] タブをクリックします。

ステップ 4 [Virtual Drive Info] タブで、イメージを更新する仮想ドライブを選択し、[Update Image] をクリックします。

(注) SCU および HUU の更新には最大 1 時間、ドライブの更新には最大 5 時間かかる場合があります。

ISO イメージのマップ解除

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- お使いのプラットフォームで Cisco Flexible Flash がサポートされている必要があります。



- (注) このタスクを実行すると、ホストですべての仮想ドライブが再スキャンされるため、仮想ドライブに接続できなくなります。仮想ドライブを使用する前に Cisco Flexible Flash コントローラのプロパティを設定するか、このタスクを開始する前にホストの電源を切ることをお勧めします。

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインの **[Storage]** タブをクリックします。
- ステップ 2** [ストレージ (Storage)] タブの **[Cisco FlexFlash]** をクリックします。
- ステップ 3** [Virtual Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ 4** [Virtual Drive Info] タブで、イメージのマッピングを解除する仮想ドライブを選択し、**[Unmap Image]** をクリックします。

Cisco Flexible Flash カード設定のリセット

Cisco Flexible Flash カードのスロットの設定をリセットすると、次の状況が発生します。

- 選択したスロット内のカードは、正常なプライマリとしてマークされます。
- もう一方のスロットのカードは、非正常なセカンダリアクティブとしてマークされます。
- 1 つの RAID パーティションが作成されます。
- カードの読み取り/書き込みエラー カウントおよび読み取り/書き込みしきい値が 0 に設定されます。
- ホスト接続が中断される可能性があります。

最新バージョンにアップグレードして設定リセットのオプションを選択すると、単一のハイパーバイザ (HV) パーティションが作成されて、既存の 4 つのパーティション構成は消去されます。これにより、データを損失する可能性もあります。損失したデータを取得するには、HV パーティションにまだデータを書き込んでいないこと、および前のバージョンにダウングレードすることが条件となります。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1** [Storage Adapters] ペインの **[Cisco FlexFlash]** をクリックします。

ステップ 2 [Cisco FlexFlash] ペインで、[コントローラ情報 (Controller Info)] タブをクリックします。

ステップ 3 [アクション (Actions)] エリアで [パーティション デフォルトへのリセット (Reset Partition Defaults)] をクリックします。

ステップ 4 [パーティション デフォルトへのリセット (Reset Partition Defaults)] ダイアログボックスで、次のフィールドを更新します。

名前	説明
[スロット (Slot)] オプション ボタン	カードに [プライマリ - 正常 (primary healthy)] のマークを付けるスロットを選択します。 他のスロットにカードがある場合は、[セカンダリアクティブ - 非正常 (secondary-active unhealthy)] のマークが付けられません。
[パーティションデフォルトへのリセット (Reset Partition Defaults)] ボタン	選択したスロットの設定をリセットします。
[Cancel] ボタン	変更を行わずにダイアログボックスを閉じます。

ステップ 5 [はい (Yes)] をクリックします。

Cisco Flexible Flash カードの設定の保持

次の状況では、ファームウェア バージョン 253 以降のカードをサポートする FlexFlash の設定を保持できます。

- 2 つの非ペアの FlexFlash があります
- 単一 FlexFlash からサーバが稼働していて、非ペアの FlexFlash が他のスロットにあります。
- 1 つの FlexFlash がファームウェア バージョン 253 をサポートし、もう 1 つの FlexFlash はパーティション化されていません。

設定を保持する場合、次の状況が発生します。

- 選択されたスロットの FlexFlash の設定は、もう 1 つのカードにコピーされます。
- 選択したスロット内のカードは、正常なプライマリとしてマークされます。
- セカンダリ スロットのカードは、非正常なセカンダリアクティブとしてマークされます。

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Storage Adapters] ペインの **[Cisco FlexFlash]** をクリックします。
- ステップ 2 [Cisco FlexFlash] ペインで、[コントローラ情報 (Controller Info)] タブをクリックします。
- ステップ 3 [アクション (Actions)] エリアの [カード設定の同期 (Synchronize Card Configuration)] をクリックします。
- ステップ 4 [カード設定の同期 (Synchronize Card Configuration)] ダイアログボックスで、次のフィールドを更新します。

名前	説明
[スロット (Slot)] オプション ボタン	設定を保持するスロットを選択します。選択したスロットから他のスロットのカードに設定がコピーされ、選択したスロットのカードには [プライマリ - 正常 (primary healthy)] のマークが付けられます。
[カード設定を同期 (Synchronize Card Configuration)] ボタン	選択したカードのタイプが SD253 で単一の HV 設定が存在する場合にのみ、選択したカードから設定をコピーします。
[Cancel] ボタン	変更を行わずにダイアログボックスを閉じます。

- ステップ 5 [はい (Yes)] をクリックします。

FlexFlash ログの詳細の表示

手順

- ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。
- ステップ 2 [ストレージ (Storage)] メニューで [Cisco Flexible Flash コントローラ (Cisco Flexible Flash Controller)] をクリックします。
- ステップ 3 [FlexFlash ログ (FlexFlash Logs)] タブの [FlexFlash ログテーブル (FlexFlash LogTable)] 領域で、次のフィールドを確認します。

名前	説明
[Time] カラム	イベントが発生した日時。

名前	説明
[Severity] カラム	イベントのシビラティ（重大度）。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none">• 緊急（Emergency）• アラート（Alert）• クリティカル（Critical）• エラー（Error）• Warning• 情報• 注記• デバッグ
[Description] カラム	イベントの説明。

ステップ 4 [FlexFlashログ（FlexFlash Logs）] タブの [アクション（Actions）] 領域で、次のフィールドを確認します。

名前	説明
[表示 (Show)] ドロップダウン リスト	<p>フィルタを使用して Cisco IMC ログ エントリを表示する方法をカスタマイズします。これらの内容は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [クイックフィルタ (Quick Filter)] : デフォルト ビュー • [Advanced Filter] : 1 つ以上の条件に基づきログエントリを表示するフィルタ オプション。マッチング ルールを使用して、[フィルタ (Filter)] フィールドで指定したルール of のすべてまたはいくつかのルールの組み合わせと一致するエントリを表示できます。 <p>新しいフィルタ条件を追加するには、[+] をクリックします。</p> <p>設定したフィルタ条件に一致するエントリを表示するには、[Go] をクリックします。</p> <p>設定したフィルタ基準は、[Save] アイコンをクリックして保存することができます。これはユーザー定義のフィルタになり、後で使用できます。</p> <p>(注) ユーザ定義のフィルタは [プリセット フィルタの管理 (Manage Preset Filters)] ダイアログボックスに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [すべて (All)] : すべてのエントリが表示されます。 • [プリセット フィルタの管理 (Manage Preset Filters)] : ユーザ定義のフィルタが表示されます。このダイアログボックスで、ユーザー定義のフィルタを編集したり削除したりできます。 • [事前定義されたフィルタのリスト (List of pre-defined filters)] : システム定義のフィルタが表示されます。

名前	説明
[フィルタ (Filter)] アイコン	クイックフィルタフィールドを表示または非表示にします。
[列 (Column)] ドロップダウンリスト	表示する列を選択できます。

ステップ 5 [FlexFlashログ (FlexFlash Logs)] タブの [ログナビゲーションツールバー (Log Navigation Toolbar)] 領域で、次のフィールドを確認します。

名前	説明
<<Newest	イベントが1ページに入りきらない場合、このリンクをクリックすると最新のエントリが表示されます。 表示されるエントリの合計数は [Entries per Page] ドロップダウンリストの設定によって異なります。
<Newer	イベントが1ページに入りきらない場合、このリンクをクリックすると次ページが表示され、現在表示されているエントリより新しいエントリを確認できます。
[Log Entries] フィールド	このフィールドは、表に現在表示されているのがどのログエントリなのかを示します。
Older>	イベントが1ページに入りきらない場合、このリンクをクリックすると次ページが表示され、現在表示されているエントリより古いエントリを確認できます。
Oldest>>	イベントが1ページに入りきらない場合、このリンクをクリックすると最も古いエントリが表示されます。
[ページ番号 (Page Number)] ドロップダウンリスト	特定のページに移動できます。ドロップダウンリストからページ番号を選択します。
[行数 (Number of Rows)] フィールド	現在のページに表示されている行数が表示されます。

FlexUtil コントローラの管理

C シリーズ M5 ラックマウント サーバーは、サーバー ソフトウェア ツールおよびユーティリティのストレージ用に microSD メモリ カードをサポートします。ライザー 1 にはこの microSD メモリ カード スロットがあります。Cisco FlexUtil は、32 GB の microSD カードのみをサポートします。

次のユーザー認識可能なパーティションが microSD カードに存在します。

- Server Configuration Utility (SCU) –1.25 GB
- 診断-0.25 GB
- Host Update Utility (HUU) –1.5 GB
- ドライバー-8 GB
- ユーザー (User)



(注) MicroSD の各パーティションの数とサイズは固定されています。

いつでも、ホストに2つのパーティションをマップできます。(ユーザーパーティションを除く) これらのパーティションは、CIFS または NFS 共有により更新できます。第2レベルの BIOS ブート順序のサポートは、すべての起動可能なパーティションにも使用できます。



(注) ユーザーパーティションはストレージにのみ使用する必要があります。このパーティションは OS のインストールをサポートしていません。

FlexUtil コントローラのプロパティの設定

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1** [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ 2** [Storage] メニューで [Cisco FlexUtil Controller] をクリックします。
- ステップ 3** [一般 (General)] タブの [操作 (Actions)] 領域で、[運用プロファイルの設定 (Configure Operational Profile)] をクリックします。
- ステップ 4** [運用プロファイル (Operational Profile)] ダイアログボックスで、次のフィールドを更新します。

名前	説明
[Controller] フィールド	選択された Flex Util コントローラのシステム定義名。 この名前は変更できません。

名前	説明
[読み取りエラーしきい値 (Read Error Threshold)] フィールド	Flex Util カードへのアクセス時の読み取りエラーの許容数。 あるカードでの読み取りエラーの数がこのしきい値を超えた場合、そのカードには正常でないというマークが付けられます。 読み取りエラーしきい値を指定するには、1 以上 255 以下の整数を入力します。検出されたエラー数に関係なく、カードが無効にならないように指定するには、0 (ゼロ) を入力します。
[書き込みエラーしきい値 (Write Error Threshold)] フィールド	Flex Util カードへのアクセス時の書き込みエラーの許容数。 あるカードでの書き込みエラーの数がこのしきい値を超えた場合、そのカードには正常でないというマークが付けられます。 書き込みエラーしきい値を指定するには、1 以上 255 以下の整数を入力します。検出されたエラー数に関係なく、カードが無効にならないように指定するには、0 (ゼロ) を入力します。

FlexUtil カード設定のリセット

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1** [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
 - ステップ 2** [Storage] メニューで [Cisco FlexUtil Controller] をクリックします。
 - ステップ 3** [一般 (General)] タブの [操作 (Actions)] 領域で、[カード設定のリセット (Reset Card Configuration)] をクリックします。
- このアクションは、FlexUtil カードの設定をデフォルトの設定にリセットします。

Cisco FlexUtil コントローラのプロパティの表示

手順

- ステップ 1** [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ 2** [Storage] メニューで [Cisco FlexUtil Controller] をクリックします。
- ステップ 3** [一般 (General)] タブの [一般 (General)] 領域で、次のフィールドを確認します。

名前	説明
[Product Name] フィールド	製品の名前。
[コントローラ名 (Controller Name)] フィールド	コントローラの名前。
[コントローラステータス (Controller Status)] フィールド	FlexUtil カードの現在のステータス。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • カードが存在しません • カードに異常があります • メタデータ読み取りエラー (Metadata Read Error) • カード アクセス エラー • 無効なカードサイズ (Invalid Card size) • メタデータが障害発生状態です • パーティションがありません。リセットが必要です • 無効なパーティションです。リセットが必要です • カードが書き込み禁止です

名前	説明
[Internal State] フィールド	<p>コントローラの内部ステート。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [未初期化 (Uninitialized)] : FlexUtil モニタリングが初期化されていません。 • [初期化中 (Initializing)] : FlexUtil モニタリングが初期化中です。 • [設定中 (Configuring)] : コントローラは FlexUtil カードの設定を確認しています。 • [OK] : FlexUtil カードはホストに接続されていません。 • [Connecting] : コントローラはホストに接続しようとしています。 • [Connected] : コントローラはホストに接続されています。 • [Failed] : コントローラに障害が発生しました。詳細については、[Controller Status] フィールドを参照してください。 • [削除中 (Erasing)] : FlexUtil カードを削除しています。 • [更新中 (Updating)] : FlexUtil カードを更新しています。 • [リセット中 (Resetting)] : カードの設定がリセットされます。

ステップ 4 [一般 (General)] タブの [物理ドライブ数 (Physical Drive Count)] 領域で、次のフィールドを確認します。

名前	説明
[Physical Drive Count] フィールド	サーバーで検出された FlexUtil カードの数。

ステップ 5 [一般 (General)] タブの [仮想ドライブ数 (Virtual Drive Count)] 領域で、次のフィールドを確認します。

名前	説明
[Virtual Drive Count] フィールド	サーバーに搭載された FlexUtil カード上で設定されている仮想ドライブの数。

物理ドライブのプロパティの表示

手順

- ステップ 1** [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ 2** [Storage] メニューで [Cisco FlexUtil Controller] をクリックします。
- ステップ 3** [物理ドライブ (Physical Drive)]タブの[一般 (General)]領域で、次のフィールドを確認します。

名前	説明
ドライブ	デバイスの名前。
ドライブ ステータス	ドライブが存在するかどうかを示します。
[Serial Number] フィールド	FlexUtil カードのシリアル番号。
[Manufacturer ID] フィールド	FlexUtil カードの製造業者 ID。
[OEM ID] フィールド	FlexUtil カードの OEM ID (該当する場合)。
[Product Name] フィールド	FlexUtil カードの名前。
[Product Revision] フィールド	FlexUtil カードのリビジョン番号。
[Manufacturing Date] フィールド	FlexUtil カードが製造された日付 (mm/yy 形式)。
[Write Enabled] フィールド	このフィールドに [true] と表示されている場合、FlexUtil カードで書き込みが受け入れられます。
[Block Size] フィールド	FlexUtil カード上のブロック サイズ (バイト単位)。
[Capacity] フィールド	FlexUtil カードの容量 (メガバイト単位)。

名前	説明
ヘルス (Health)	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • 正常 • 異常

ステップ 4 [物理ドライブ (Physical Drive)] タブの [エラーカウンタ (Error Counters)] 領域で、次のフィールドを確認します。

名前	説明
[読み取りエラーしきい値 (Read Error Threshold)] フィールド	FlexUtil カードへのアクセス時の読み取りエラーの許容数。
[Read Error Count] フィールド	FlexUtil カードが最初にインストールされてから現在までに I/O トラフィックの処理中に発生した読み取りエラーの数。
[Write Error Threshold] フィールド	FlexUtil カードへのアクセス時の書き込みエラーの許容数。
[書き込みエラーカウント (Write Error Count)] フィールド	FlexUtil カードが最初にインストールされてから現在までに I/O トラフィックの処理中に発生した書き込みエラーの数。

ステップ 5 [物理ドライブ (Physical Drive)] タブの [パーティション (Partition)] 領域で、次のフィールドを確認します。

名前	説明
[パーティションカウント (Partition Count)] フィールド	FlexUtil カード上のパーティションの数。
[Drives Enabled] フィールド	FlexUtil カード上のアクセスが有効になっている仮想ドライブ。

仮想ドライブのプロパティの表示

手順

ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。

ステップ 2 [Storage] メニューで [Cisco FlexUtil Controller] をクリックします。

ステップ 3 [物理ドライブ (Physical Drive)] タブの [仮想ドライブ (Virtual Drives)] 領域で、次のフィールドを確認します。

名前	説明
[Virtual Drive] カラム	仮想ドライブの名前。
[ID] カラム	仮想ドライブ ID。
LUN ID	LUN ID (使用可能な場合)。
[Drive Scope] カラム	仮想ドライブがどのように設定されているか。これは常に [非RAID (NON RAID)] になります。
[サイズ (Size)] カラム	仮想ドライブのサイズ (MB 単位)。
[Drive Status] カラム	デバイスの状態。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • 正常 • 異常
[Host Accessible] カラム	仮想ドライブがホストにマップされているかどうかを示します。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • 接続中 • 未接続 <p>このフィールドに [接続中 (connected)] と表示される場合、仮想ドライブがホストにマップされていることを意味します。</p>
[Drive Type] カラム	ドライブのタイプ。これは常に [削除可能 (Removable)] になります。
[Operation in Progress] カラム	進行中の操作。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • 削除中 (Erasing) • 削除保留中 (Erase-Pending) • 更新 • 更新保留中 (Update-Pending) • 該当なし <p>(注) 何らかの操作の実行中に Cisco IMC を再起動すると、その操作は中断され再起動後に操作の状態は NA に設定されます。</p>

名前	説明
[最後の操作ステータス (Last Operation Status)] 列	直前の操作の状態。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • 削除成功 (Erase-Success) • 削除失敗 (Erase-Failed) • 更新成功 (Update-Success) • UPDATE_FAILED
[常駐画像 (Resident Image)]	仮想ドライブに存在するイメージファイルの名前を表示します。

ステップ 4 [物理ドライブ (Physical Drive)] タブの [アクション (Actions)] 領域で、次のフィールドを確認します。

名前	説明
仮想ドライブを有効/無効にします	仮想ドライブを有効/無効にできます。
仮想ドライブの消去 (Erase Virtual Drive(s))	仮想ドライブを FAT 32 形式にフォーマットできます。 (注) 進行中の消去操作または保留中の消去操作を取り消すことはできません。
画像の追加 (Add Image)	SCU、HUU、診断、およびドライブの ISO イメージの設定を追加できます。
Update Image	仮想ドライブを ISO イメージで更新できます。 (注) <ul style="list-style-type: none"> • 任意の仮想ドライブで削除または更新が進行中または保留状態の時は、[Virtual] タブで使用可能ないずれのアクションも実行できません。 • 進行中の更新処理をキャンセルするには、[更新のキャンセル (Cancel Update)] ボタンを使用します。
更新のキャンセル	進行中の更新処理を取り消します。

名前	説明
イメージのマップ解除 (Unmap Image)	ISO イメージの設定を削除できます。

仮想ドライブへのイメージのマッピング

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ 2 [Storage] メニューで [Cisco FlexUtil Controller] をクリックします。
- ステップ 3 [仮想ドライブ (Virtual Drives)] タブをクリックします。
- ステップ 4 [仮想ドライブ (Virtual Drives)] 領域で、仮想ドライブを選択して、[イメージの追加 (Add Image)] をクリックします。
- ステップ 5 [新しいイメージの追加 (Add New Image)] ダイアログボックスで、次のフィールドを更新します。

名前	説明
[ボリューム (Volume)] フィールド	マッピング用にマウントしたイメージの ID。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [SCU] • 診断 • [HUU] • [Drivers]
[Mount Type] ドロップダウンリスト	マッピングのタイプです。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [NFS] : ネットワーク ファイル システム。 • [CIFS] : 共通インターネット ファイル システム。 • [WWW(HTTP/HTTPS)] : HTTP ベースまたは HTTPS ベースのシステム。

名前	説明
[リモート共有 (Remote Share)] フィールド	<p>マップするイメージの URL。形式は選択した [マウント タイプ (Mount Type)] に応じて異なります。</p> <ul style="list-style-type: none">• [NFS] : serverip:/share のパスを使用します。• [CIFS] : //serverip/share path を使用します。• [WWW(HTTP/HTTPS)] : http[s]://serverip/share を使用します。
[Remote File] フィールド	<p>名前およびリモート共有の .iso ファイルの場所。次に、リモート共有ファイルの例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• [NFS] : /softwares/ucs-cxx-scu-3.1.9.iso• [CIFS] : /softwares/ucs-cxx-scu-3.1.9.iso• [WWW(HTTP/HTTPS)] : http[s]://softwares/ucs-cxx-scu-3.1.9.iso

名前	説明
[マウント オプション (Mount Options)] フィールド	<p>カンマ区切りリストで入力される業界標準のマウント オプション。オプションは選択した [マウント タイプ (Mount Type)] に応じて異なります。</p> <p>[NFS] を使用している場合、フィールドを空白にしておくか、次のうちの 1 つ以上を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ro • rw • nolock • noexec • soft • port=VALUE • timeo=VALUE • retry=VALUE <p>[CIFS] を使用している場合、フィールドを空白にしておくか、次のうちの 1 つ以上を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • soft • nounix • noserverino <p>[WWW(HTTP/HTTPS)] を使用している場合は、このフィールドを空白のままにするか、次のように入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • noauto <p>(注) イメージをマウントする前に、Cisco IMC はサーバーに ping を実行することによって、エンドサーバーへの到達可能性の確認を試みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • username=VALUE • password=VALUE

ステップ 6 省略可能 : [イメージの追加 (Add Image)] ボタンはトグル ボタンです。イメージをマップした後、ドライブから同じイメージを解除する場合は、仮想ドライブを選択して[イメージのマップ解除 (Unmap Image)] をクリックします。

仮想ドライブ上のイメージの更新

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
 - ステップ 2** [Storage] メニューで [Cisco FlexUtil Controller] をクリックします。
 - ステップ 3** [仮想ドライブ (Virtual Drives)] タブをクリックします。
 - ステップ 4** [仮想ドライブ (Virtual Drives)] 領域で、イメージを更新する仮想ドライブを選択し、[イメージの更新 (Update Image)] をクリックします。
 - ステップ 5** 省略可能：実行中の更新操作をキャンセルする場合は、[更新のキャンセル (Cancel Update)] をクリックします。
-

仮想ドライブからのイメージのマッピング解除

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
 - ステップ 2** [Storage] メニューで [Cisco FlexUtil Controller] をクリックします。
 - ステップ 3** [仮想ドライブ (Virtual Drives)] タブをクリックします。
 - ステップ 4** [仮想ドライブ (Virtual Drives)] 領域で、イメージを削除する仮想ドライブを選択し、[イメージのマッピング解除 (Unmap Image)] をクリックします。
-

仮想ドライブの消去

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

-
- ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ2 [Storage] メニューで [Cisco FlexUtil Controller] をクリックします。
- ステップ3 [仮想ドライブ (Virtual Drives)] タブをクリックします。
- ステップ4 [仮想ドライブ (Virtual Drives)] 領域で、削除する仮想ドライブを選択して、[仮想ドライブの削除 (Erase Virtual Drive)] をクリックします。
-

Cisco ブート最適化 M.2 Raid コントローラ

Cisco ブート最適化 M.2 Raid コントローラの詳細の表示

始める前に

サーバの電源が投入されている。

手順

-
- ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
- ステップ2 [Storage (ストレージ)] メニューで、適切な M.2 コントローラをクリックします。
- ステップ3 [Controller] 領域に、[Controller Info] タブがデフォルトで表示されます。
- ステップ4 [Work (作業)] ペインの [Health/Status (ヘルス/ステータス)] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[Composite Health] フィールド	コントローラ、接続ドライブ、およびバッテリーバックアップユニットの全体的な状態。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • Good • [Moderate Fault] • [Severe Fault] • 該当なし

名前	説明
[Controller Status] フィールド	<p>コントローラの現在のステータス。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Optimal] : コントローラは正常に機能しています。 • [Failed] : コントローラが機能していません。

ステップ 5 [Firmware Versions] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[Product Name] フィールド	Cisco ブート最適化 M.2 Raid コントローラの名前。
[Product PID (製品 PID)] フィールド	Cisco ブート最適化 M.2 Raid コントローラの製品 PID。
[Serial Number] フィールド	Cisco ブート最適化 M.2 Raid コントローラのシリアル番号。
[Firmware Package Build] フィールド	<p>アクティブなファームウェアパッケージのバージョン番号。</p> <p>ファームウェア コンポーネントのバージョン番号については、[Running Firmware Images] 領域を参照してください。</p>

ステップ 6 [PCI Info] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[PCI Slot] フィールド	コントローラが配置されている PCIe スロットの名前。
[Vendor ID] フィールド	PCI ベンダー ID (16 進)。
[Device ID] フィールド	PCI デバイス ID (16 進)。
[SubVendor ID] フィールド	PCI サブベンダー ID (16 進)。
[SubDevice ID] フィールド	PCI サブデバイス ID (16 進)。

ステップ 7 [Manufacturing Data] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[Manufactured Date] フィールド	Cisco Boot 最適化 M. 2 Raid コントローラの製造日 (yyyy-mm-dd 形式)。
[Revision No] フィールド	ボードのリビジョン番号 (存在する場合)。

ステップ 8 [Next Patrol Read Schedule (次のパトロール読み込みスケジュール)] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[PR State (PR 状態)] フィールド	M. 2 Raid コントローラのパトロール読み取り状態。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • ready • stopped • active デフォルト状態: N/A 。
[PR Schedule Mode (PR スケジュールモード)] フィールド	M. 2 Raid コントローラのパトロール読み取りスケジュールモード。 [PR Schedule Mode (PR スケジュールモード)] は、デフォルトでは 手動 です。

ステップ 9 [Running Firmware Images] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[BIOS Version] フィールド	BIOS オプション PROM のバージョン番号。
[ファームウェアのバージョン (Firmware Version)] フィールド	アクティブなファームウェアのバージョン番号。
[Boot Block Version] フィールド	ブートブロックのバージョン番号。

ステップ 10 [Virtual Drive Count] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[Virtual Drive Count] フィールド	コントローラ上で設定されている仮想ドライブの数。
[Degraded Drive Count] フィールド	コントローラ上の低下状態の仮想ドライブの数。

名前	説明
[Offline Drive Count] フィールド	コントローラ上の障害が発生した仮想ドライブの数。

ステップ 11 [Physical Drive Count] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[Disk Present Count] フィールド	コントローラ上に存在する物理ドライブの数。
[Critical Disk Count (クリティカル ディスク数)] フィールド	コントローラ上のクリティカル状態の物理ドライブの数。
[Failed Disk Count] フィールド	コントローラ上の障害が発生した物理ドライブの数。

ステップ 12 [Capabilities] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[RAID Levels Supported] フィールド	コントローラでサポートされる RAID レベル。 [Raid 1] : 単純なミラーリング。

ステップ 13 [HW Configuration] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[Number of Backend Ports] フィールド	コントローラ上の SATA ポートの数。

Viewing Physical Drive Info for Cisco Boot Optimized M.2 Raid Controller

始める前に

サーバの電源が投入されている。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。

ステップ 2 [Storage (ストレージ)] メニューで、適切な M.2 コントローラをクリックします。

ステップ 3 [Physical Drive Info (物理ドライブ情報)] タブをクリックし、[Physical Drives (物理ドライブ)] 領域で次の情報を確認します。

名前	説明
[Controller] カラム	コントローラドライブが配置されている PCIe スロットの名前。
[Physical Drive Number] カラム	物理ドライブ番号。
[ステータス (Status)] カラム	物理ドライブのステータス。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • JBOD—ドライブが JBOD モードです。 • [Failed] : ドライブは使用中ですが、障害が発生しています。 • [Offline] : ドライブはオフラインでアクセスできません。 • [Online] : ドライブはドライブ グループの一部として使用されています。 • [Predicted Failure] : ドライブはコントローラによって失敗すると即座にマークされています。 • [Rebuild] : ドライブは現在再構築されています。 • 不明—ドライブ ステータスが不明です。
[State] カラム	物理ドライブの状態。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • JBOD—物理ドライブが JBOD 状態です。 • オンライン : ドライブはドライブ グループの一部として使用されています。 • 失敗: 物理ドライブは障害状態です。 • 再構築—物理ドライブが再構築状態です。

名前	説明
[Health] カラム	<p>物理ドライブの状態。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Good • [Moderate Fault] • [Severe Fault] <p>[状況 (Health)]フィールドには、テキストと色分けされたアイコンの両方が含まれます。色分けされたアイコンが表示される場合は、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緑色: 通常の動作を示します。 • 黄色: 情報メッセージです。 • 赤色: 警告、重大、および回復不能なエラーを示します。
[ドライブ ファームウェア (Drive Firmware)] カラム	ドライブで実行されているファームウェアバージョン。
[Model] カラム	ドライブのベンダー名。
[Type] カラム	ドライブがハードドライブ (HDD) であるか、ソリッドステートドライブ (SSD) であるか。

ステップ 4 [Health/Status (ヘルス/ステータス)] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[ヘルス (Health)]	<p>物理ドライブのヘルス状況。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Good • [Moderate Fault] • [Severe Fault]

名前	説明
状態	物理ドライブの状態。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • JBOD—物理ドライブがJBOD状態です。 • オンライン：ドライブはドライブグループの一部として使用されています。 • 失敗：物理ドライブは障害状態です。 • 再構築—物理ドライブが再構築状態です。
Status (ステータス)	物理ドライブのステータス。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • JBOD—ドライブがJBODモードです。 • [Failed]：ドライブは使用中ですが、障害が発生しています。 • [Offline]：ドライブはオフラインでアクセスできません。 • [Online]：ドライブはドライブグループの一部として使用されています。 • [Predicted Failure]：ドライブはコントローラによって失敗すると即座にマークされています。 • [Rebuild]：ドライブは現在再構築されています。 • 不明—ドライブステータスが不明です。
[Fault]	このフィールドに [true] が表示される場合、ドライブは [failed (失敗)] 状態です。
オンライン	このフィールドに [true] が表示される場合、ドライブは [online (オンライン)] 状態です。

ステップ 5 [Smart Information] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
電源の再投入回数	製造された時点からドライブの電源が再投入された回数。[Power Cycle Count (電源の再投入回数)] フィールド

名前	説明
電源オン時間	ドライブが「電源オン」モードにある時間の合計数。
残量 (パーセンテージ)	M.2 ドライブに残っている書き込みサイクル数。たとえば、M.2 ドライブがライフタイム中に 100 の書き込みサイクルに対応でき、15 の書き込みを完了している場合、ドライブの残りのライフのパーセンテージは 85% です。パーセンテージの各範囲は異なる色で表されます。たとえば、75% ~ 100% は緑、1% ~ 25% は赤で表されます。
消耗状態 (日数)	M.2 ドライブが書き込みサイクルを実行した日数。
動作温度 (°C)	選択した M.2 ドライブが選択時点で動作しているドライブの現在の温度。
使用された予約済み容量の割合	M.2 ドライブによって消費された総容量 (そのために予約されている割合のうちの)。
前回の更新時刻	ドライブが最後に更新されてからの時間。

ステップ 6 [Operation Status (動作ステータス)] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[Operation]	ドライブで進行中の現在の操作。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • Rebuild in progress • Patrol read in progress
[Progress in %]	操作の進行状況のパーセンテージ。

ステップ 7 [Inquiry Data (インクエリ データ)] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
製品 ID	ドライブの製品 ID。通常、このフィールドにはドライブのモデル番号が表示されます。
Vendor	ドライブのベンダー。
ドライブ ファームウェア	ドライブ上のアクティブなファームウェアバージョン。

名前	説明
ドライブのシリアル番号	ドライブのシリアル番号。

ステップ 8 [General (全般)] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
スロット番号	物理ドライブが存在するスロット番号。
未加工サイズ	フォーマットに使用された領域を含むドライブの容量 (MB 単位)。
ネゴシエートされたリンク速度	ドライブとコントローラ間のリンクの速度。
メディア タイプ	ドライブタイプは、ソリッドステートドライブ (SSD) です。
インターフェイス タイプ	ドライブのインターフェイス タイプ。
エンクロージャ関連	ドライブをコントローラに直接接続するの か否かを示します。ここに表示される値は次 のとおりです。 直接接続: ドライブはコントローラに直接接続 されます。

Cisco ブート最適化 M.2 Raid コントローラの仮想ドライブ情報の表示

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。

ステップ 2 [Storage (ストレージ)] メニューで、M.2 Raid コントローラをクリックします。

ステップ 3 [Virtual Drive Info (仮想ドライブ情報)] タブを選択し、[Virtual Drives (仮想ドライブ)] 領域で次の情報を確認します。

名前	説明
[Virtual Drive Number] カラム	仮想ドライブの番号。
[Name] カラム	仮想ドライブの名前。

名前	説明
[ステータス (Status)] カラム	<p>仮想ドライブの状態。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 部分的に低下: 仮想ドライブまたは物理ドライブの再構築が進行中です。 • 低下: ドライブの1つ以上のスパンに冗長性がありません。 • オフライン: ドライブはホストに表示されません。 • 不明: 仮想ドライブの状態は不明です。 • 最適: ドライブには完全な冗長性があります。
[状態 (Health)] カラム	<p>仮想ドライブの状態。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Good • [Moderate Fault] • [Severe Fault] <p>[状況 (Health)] フィールドには、テキストと色分けされたアイコンの両方が含まれます。色分けされたアイコンが表示される場合は、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緑色: 通常の動作を示します。 • 黄色: 情報メッセージです。 • 赤色: 警告、重大、および回復不能なエラーを示します。
[Size] カラム	ドライブの容量 (MB 単位) 。
[RAID Level] カラム	<p>仮想ドライブ上の RAID レベル。</p> <p>[Raid 1] : 単純なミラーリング。</p>

ステップ 4 [General (全般)] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
名前 (Name)	仮想ドライブの名前。

名前	説明
ストリップ サイズ	各ストライプのサイズ (KB 単位)。

ステップ 5 [Physical Drive (物理ドライブ)] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
物理ドライブ番号	物理ドライブ番号。
状態	物理ドライブの状態。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • JBOD—物理ドライブが JBOD 状態です。 • オンライン : ドライブはドライブ グループの一部として使用されています。 • 失敗: 物理ドライブは障害状態です。 • 再構築—物理ドライブが再構築状態です。
Status (ステータス)	物理ドライブのステータス。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • JBOD—ドライブが JBOD モードです。 • [Failed] : ドライブは使用中ですが、障害が発生しています。 • [Offline] : ドライブはオフラインでアクセスできません。 • [Online] : ドライブはドライブ グループの一部として使用されています。 • [Predicted Failure] : ドライブはコントローラによって失敗すると即座にマークされています。 • [Rebuild] : ドライブは現在再構築されています。 • 不明—ドライブ ステータスが不明です。

ステップ 6 [Operation Status (動作ステータス)] 領域で、次の情報を確認します。

名前	説明
[Operation]	ドライブで進行中の現在の操作。ここに表示される値は次のとおりです。 Rebuild in progress
[Progress in %]	操作の進行状況のパーセンテージ。

Cisco FlexMMC

Cisco FlexMMC の詳細の表示

手順

ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。

ステップ 2 [ストレージ (Storage)]メニューで、[Cisco FlexMMC] をクリックします。

ステップ 3 [IMC イメージのメモリ (Memory for IMC Image)]エリアで、次を表示します：

フィールド	説明
Total Space	Cisco IMC イメージに使用可能な合計スペース。
使用可能なスペース	Cisco IMC イメージに使用可能な残りのスペース。

ステップ 4 [ファイルストレージのメモリ (Memory for File Storage)]エリアビューで、次を表示します：

フィールド	説明
Total Space	ファイルの利用可能な総容量。
使用可能なスペース	ファイルに使用できる残りのスペース。
最後のファイル操作のステータス	最後にアップロードされた画像のステータス。

ステップ 5 [コピーしたファイル (Files Copied)]エリアで、次を表示します：

フィールド/アクション	説明
アップロード ファイル ボタン	アップロードファイルダイアログボックスを開きます。
[ファイルの削除/アップロードのキャンセル (Delete File/Cancel Upload)] ボタン	[ファイルの削除 (Delete File)] と [アップロードのキャンセル (Cancel Upload)] を切り替えます。 アップロード後に選択した画像を削除します。 ファイルのアップロード中にアップロードプロセスをキャンセルします。
マップ画像 ボタン	選択した画像をマッピングします。
ファイル名 カラム	保存されている画像のファイル名。
ファイル タイプ カラム	イメージの種類
ファイル サイズカラム	イメージのサイズ。
[Partition] カラム	パーティションの数。
アップロード時間列	アップロードされた画像のタイムスタンプ。
[Progress %] カラム	画像ファイルのアップロードの進行状況。
[ステータス (Status)] カラム	画像ファイルの全体的な状態。

新しいイメージファイルのアップロード

始める前に

アップロード進行中のファイルがないことを確認してください。一度にアップロードできるイメージファイルは1つだけです。新しいファイルをアップロードするには、まず既存のファイルをマッピング解除して削除する必要があります。

手順

- ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ 2 [ストレージ (Storage)]メニューで、[Cisco FlexMMC] をクリックします。
- ステップ 3 [ファイルのコピー (Files Copied)]エリアで、[ファイルのアップロード (Upload File)]をクリックします。
- ステップ 4 [ファイルのアップロード (Upload File)]ダイアログボックスで、次に値を入力します：

フィールド	説明
<p>[パーティション (Partition)] ドロップダウンリスト</p>	<p>パーティションのタイプ次のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IMC イメージ : Cisco .iso ファイル。 • ユーザファイル : 任意の .iso、イメージ、またはその他のファイル形式。 <p>アップロードできるのは1つの .iso ファイルのみです。</p> <p>(注) 他のファイル形式を選択した場合、Cisco IMC はファイルをイメージファイルに変換します。</p> <p>その他のファイル形式の場合、ファイルサイズは10MBを超える必要があります。また、変換のために余分なスペースが必要です。</p>
<p>[Mount Type] ドロップダウンリスト</p>	<p>マッピングのタイプです。次のいずれかになります。</p> <p>(注) 選択するマウントタイプの通信ポートがスイッチ上で有効になっていることを確認してください。たとえば、マウントタイプとしてCIFSを使用する場合、ポート445 (CIFSの通信ポート) がスイッチ上で有効になっていることを確認します。同様に、HTTP、HTTPS、またはNFSを選択する場合は、ポート80 (HTTPの場合)、ポート443 (HTTPSの場合)、またはポート2049 (NFSの場合) を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NFS] : ネットワークファイルシステム。 • [CIFS] : 共通インターネットファイルシステム。 • [WWW(HTTP/HTTPS)] : HTTP ベースまたはHTTPS ベースのシステム。

フィールド	説明
[リモート共有 (Remote Share)] フィールド	マップするイメージの URL。形式は選択された [Mount Type] によって異なります。 <ul style="list-style-type: none">• [NFS] : serverip:/share を使用します。• [CIFS] : serverip://share を使用します。• [WWW(HTTP/HTTPS)] : http[s]://serverip/share を使用します。
[Remote File] フィールド	リモート共有に含まれる .iso または .img ファイルの名前と場所。

フィールド	説明
[マウントオプション (Mount Options)]フィールド	

フィールド	説明
	<p>カンマ区切りリストで入力される業界標準のマウントオプション。オプションは選択された [Mount Type] によって異なります。</p> <p>[NFS] を使用している場合は、このフィールドを空白のままにするか、次の中から 1 つ以上を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ro • noexec • noexec • soft • port=VALUE <p>[CIFS] を使用している場合は、このフィールドを空白のままにするか、次の中から 1 つ以上を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ro • nounix • noserverino • port=VALUE • [Ntlm] : NT LAN Manager (NTLM) セキュリティプロトコル。このオプションは、Windows 2008 R2 および Windows 2012 R2 でのみ使用します。 • vers=VALUE <p>(注) 値の形式は x.x である必要があります</p> <p>[WWW(HTTP/HTTPS)] を使用している場合は、このフィールドを空白のままにするか、次のように入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • noauto <p>(注) 仮想メディアをマウントする前に、Cisco IMC はサーバーに ping を実行することによって、エンドサーバーへの到達可能性の確認を試みます。</p>

フィールド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • username=VALUE • password=VALUE
[ユーザ名 (User Name)]フィールド	指定した [マウントタイプ (Mount Type)] のユーザ名 (必要な場合)。
[パスワード (Password)]フィールド	選択されたユーザー名のパスワード (必要な場合)。

ステップ 5 [保存 (Save)]をクリックします。

ファイルのアップロードステータスは、[コピーされたファイル (Files Copied)]エリアで確認できます。

(注) アップロードプロセスが完了する前にキャンセルする場合は、ファイルを選択して [アップロードのキャンセル (Cancel Upload)]をクリックします。

イメージファイルの削除

始める前に

次の点を確認します。

- アップロード進行中のファイルはありません。アップロード進行中のファイルは削除できません。
- マッピングされているファイルはありません。すでにマッピングされているファイルは削除できません。ファイルを削除する前に、まずファイルのマッピングを解除する必要があります。

手順

ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの [ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。

ステップ 2 [ストレージ (Storage)]メニューで、[Cisco FlexMMC] をクリックします。

ステップ 3 [コピーされたファイル (Files Copied)]エリアで画像ファイルを選択し、[ファイルを削除 (Delete File)]をクリックします。

イメージのマッピングまたはマップ解除

手順

-
- ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。
- ステップ2 [ストレージ (Storage)]メニューで、[Cisco FlexMMC] をクリックします。
- ステップ3 [コピーされたファイル (Files Copied)]エリアで画像ファイルを選択し、[マップ画像 (Map Image)]または[マップ解除画像 (UnMap Image)]をクリックします。
-

FlexMMC をデフォルト設定へリセット

この手順を実行して、FlexMMC をデフォルトの Cisco IMC 設定にリセットします。



(注) この手順を実行すると、アップロードされたすべてのイメージが削除されます。

始める前に

次の点を確認します。

- アップロード進行中のファイルはありません。ファイルのアップロードが進行中は、FlexMMC をデフォルト設定にリセットできません。
- マッピングされているファイルはありません。ファイルがすでにマッピングされている場合、FlexMMC をリセットすることはできません。FlexMMC をリセットする前に、まずファイルのマッピングを解除する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	[ナビゲーション (Navigation)]ペインの[ストレージ (Storage)]メニューをクリックします。	
ステップ2	[ストレージ (Storage)]メニューで、[Cisco FlexMMC] をクリックします。	
ステップ3	[デフォルトに復元 (Restore to Defaults)]をクリックします。	
ステップ4	確認のために[はい (Yes)]をクリックします。	

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。